

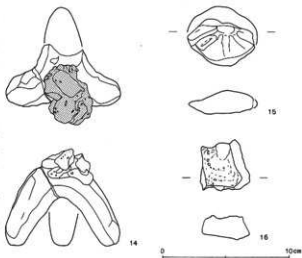
第162図 第2 鑄造遺構群出土遺物(1)

道具は14の三叉状土製品と15の半球状土製品を検出した。三叉状土製品は上端に滓の付着が見られる。半球状土製品は他に比べ器内が薄い。整形は他と同様に上面を指整形され中心の突起を造り出している。

滓は16の椀形鍛冶滓を検出した。側面4面が直線状の破面となる厚さ1.3mm程の薄手の椀形鍛冶滓片である。上面は小さな顆粒状の突起がありゆるやかに凹んでいる。下面は、端部に灰色の鍛冶炉の炉床粘土が付着し、他の部分も全て炉床粘土の圧痕である。破面には楕円気味の小気孔が散在する。色調は赤褐色、地は黒褐色である。また、上面端部の一箇所のみがやや磁着が強く他は弱い。鍛錬段階の鍛冶炉の炉床に貼り付いた、小さな椀形鍛冶滓の中核部破片と推定される。

古銭は17・18でいずれも北宋銭である。17は熙寧元寶(1068年)、18は紹聖元寶(1094年)である。

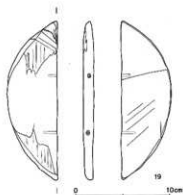
木製品では第165図-19の曲物の破片を検出した。残存長16.8cm、幅5.1cm、厚さ1.1cmである。割れ口には2箇所に長さ1.4cm程の木釘の痕跡が見られる。



第163図 第2 鋳造遺構群出土遺物(2)



第164図 第2 鋳造遺構群出土遺物(3)



第165図 第2 鋳造遺構群出土遺物(4)

第2 群出土遺物観察表 (第162~165図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他	産地
1	片口鉢	31.9	6.2		CDH	A	茶褐色	20%	第3号廃滓	常滑
2	片口鉢	26.6	8.9	12.8	ACDE	B	茶褐色	20%	O-10 Pit6	常滑
3	片口鉢	26.0	3.9		ADEG	C	茶褐色	10%	Na3 S D22M-12-g-1	在地
4	片口鉢	26.4	5.3		AD	B	黒褐色	10%	O-10-c-8	在地
5	甕	28.8	3.8		CDE	B	黒褐色	20%	O-10 表探	在地
6	甕	26.6	4.1		CDEG	B	褐色	5%	O-11 Pit16	在地
7	青磁碗		3.4	5.0	I	A	緑色	5%	Pit2 碗 I 5b	中国・龍泉

第2群出土鑄造遺物観察表 (第162~165図)

番号	遺物種類	長さ	幅	厚さ	重さ	他の測値	備	考	分類
8	羽口	6.5	5.9	1.7	77	直径(9.3)	SSK2No6		羽口
9	羽口	5.4	4.5	1.8	45	直径(11.8)	第3号廃滓		羽口
10	容器	8.0	9.9	3.8	215		SSK1No28		鑄型
11	容器				55	内径8.6器高3.6	SSK1No1		鑄型
12	容器				78	口径(26.4)器高5.9	SSK5No57		鑄型
13	容器				115	内径12.4器高4.0	SSK1No.1		鑄型
14	三叉状土製品			9.1	170	高さ6.8	Pit1		土器
15	半球状土製品	4.6	5.5	1.8	28		N-10-m-9		土器
16	椀型滓	3.9	4.0	1.9	48		O-10-h-5	分析資料No40	塊2

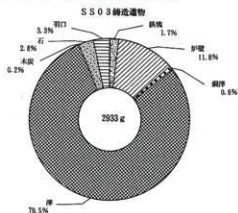
b 第3鑄造遺構群

本群は第3鑄造遺構群としたが不整形の細長い鑄造土塊1基のみである。北側には第4鑄造遺構があり両者は関連していたものと考えられる。

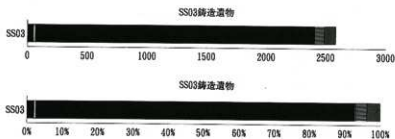
遺構

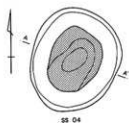
本土塊は南北方向に長軸をもつ。長さ2.80m、幅0.79m、深さ24cmである。検出面では左右2箇所に円形に広がりをもつ滓溜まりを検出した。断面観察によると、覆土第2~5層からなる第1整

第13表 第3鑄造遺構群遺物計量表



小番号	鉄塊	埴	銅滓	鉄滓	木炭	白色埴	石	鑄型	土器	羽口	粘土塊
SS03		91	347	18	232	5	0	0	0	0	0



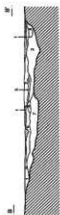


SS 04

Q-12-a



SS 02



SS-03

- 1 暗褐色土 焼土・炭化粒子を含み、やや軟質。
(最終作業層土)
- 2 暗褐色土 焼土・ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒子・少量のロームブロックを含む。
- 4 暗灰褐色土 焼土・炭化粒子を含む。砂質土。
- 5 暗灰褐色土 ロームブロック・焼土粒子を含む。
- 6 砂質ローム 暗褐色土を少量混入。
- 7 灰褐色土 ロームブロック、砂を混入。
(2~7は、硬質で、人為的に埋め戻した土である。)
- 8 灰褐色土 ロームブロックを含む。

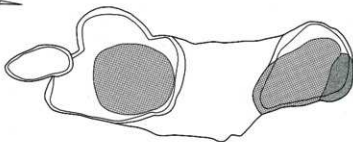
SS-04

- 1 暗褐色土 焼土、木炭、砂質ローム粒子を多量含む。
伊壁と障を多く含む部分は砂を多く含む。
全体に軟質。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを混在。
(2~4は、人為的に埋め戻した土で、硬くしまる。)

0 2m

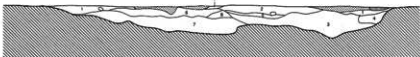


A



A

A



A

0 1m

第166図 第3・4 鈿造遺構群

地層と第6・7層からなる第2整地層が連続したものと考えられる。第2～7層は硬質で人為的に埋め戻した土と考えられこの整地された作業面には第1層の焼土・炭化粒子を含む暗褐色土に鉄滓溜まりが前後2箇所検出された。

遺物は、鉄塊51g、炉壁347g、銅滓18g、鉄滓2332g、木炭5g、白色滓0g、石83g、銅型0g、羽口97gを計った。銅型片は検出されず、鉄滓が79.5%を占める。鉄滓は鑄造滓であり滓の大きさは細かい。色調は黒色の赤味を帯び、錆化した滓も多く含む。

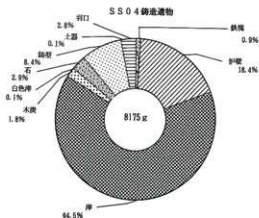
C 第4 鑄造遺構群

本群は第4 鑄造遺構群としたが円形の鑄造土塊1基のみである。南側には第3 鑄造遺構があり、さらに、南に第1粘土採掘跡を検出した。周辺には鑄造関連土塊が数多く検出された。

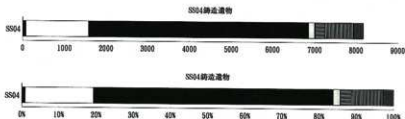
遺構

本土塊は径1.65mのほぼ円形をし、深さ27cmである。検出面では中央部に円形の広がりをもつ炉壁・滓溜まりを確認。断面観察によると第1層は焼土、木炭、砂質ローム粒子を多く含み、第1層の中央部は炉壁・鉄滓と砂を多く含み全体に軟質である。第2～4層は人為的堆積層でロームブロックを含み、硬くしまっている。

第14表 第4 鑄造遺構群遺物計量表



小番号	鉄塊	炉壁	銅滓	鉄滓	木炭	白色滓	石	銅型	土器	羽口	粘土塊
S504	72	347	18	2329	5	0	83	0	10	97	0



第15表 第2・3・4 鋳造遺構群一覧表

(単位 m)

新番号	旧番号	位置	形態	長軸	短軸	深さ	主軸方向
SS02-SSK01	SS-02 S K01	O-10-b	隅丸方形	1.65	1.56	0.18	N-18'-W
SSK02	S K02	N-10-e	隅丸長方形	2.07	1.54	0.21	N-22'-W
SSK03	S K03	O-10-b	楕円形	1.32	0.88	0.18	N-1'-E
SSK04	S K04	O-10-f	円形	1.19		0.18	N-12'-W
SSK05	鋳型集中区	O-10-g	隅丸方形	2.95	2.83	0.25	N-1'-E
第1号鋳込み	鋳型集中区	O-10-g	方形	1.21	0.90	0.14	N-24'-W
第1号炉	1号炉	O-10-h	円形	0.38			
第1号廃滓	廃滓1	O-10-g					
第2号廃滓	廃滓2	N-10-m					
第3号廃滓	廃滓3	O-10-f					
SS-03 SSK01	SS-03	Q-12-a	不整形	2.80	0.79	0.24	N-1'-E
SS-04 SSK01	SS-04	Q-12-a	円形	1.65		0.27	N-30'-E

(2) 鋳造関連遺構

本区には第1号炭焼き窯、第1～3号粘土探掘跡を検出した。また、第85号土壌は床面に鍛冶炉跡を伴う。

第1号粘土探掘跡 (第167～168図)

本遺構は第3・4号鋳造遺構群の西側で検出した。台地上の平坦面にあたる。また、第9・17号溝と重複関係にあり、いずれの溝よりも本遺構は古い。

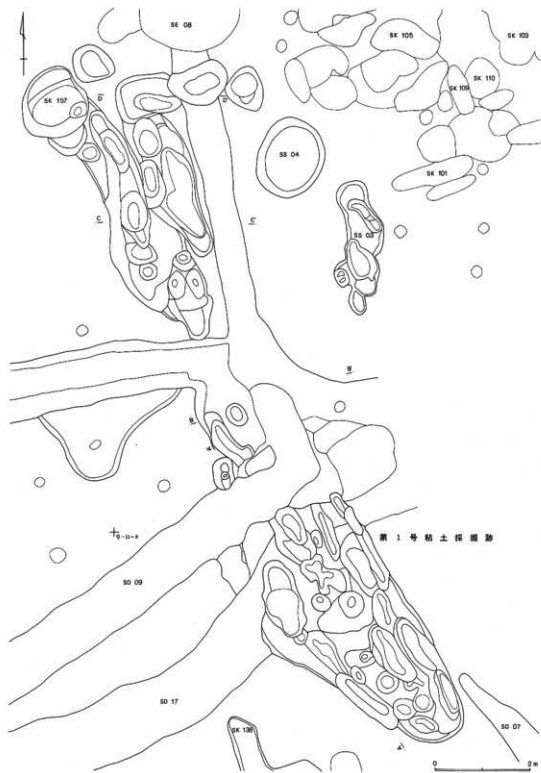
粘土探掘跡は粘土の採取を目的とした竪穴状の土壌である。採取された粘土は溶解炉や羽口、鋳型や鋳造道具の素材として利用されている。本遺跡からは3箇所箇の粘土探掘跡を検出したが、本遺構は地山のローム土を10cm程掘り下げた黄白色および白灰色の粘土を採取している。粘土層の下は小礫を混在する粘土層となりこの層までは掘り込みをしていない。形態は不定形であるが南北方向に細長く幾重にも探掘土壌が存在した集合土壌と考えられる。底面は平坦な部分や凹凸の部分などあり土壌が重複していることがわかる。また壁はなだらかに立ち上がる部分もあればオーバーハングする部分も存在する。全体の規模は南北15.20m、東西は最大で3.00m、深さは60cm前後である。しかし、粘土探掘跡は何度も掘られた土壌の最終的な大きさである。

粘土探掘跡は南北方向に長く伸びるが中央付近で掘り込みが途切れ北側と南側に分かれている。

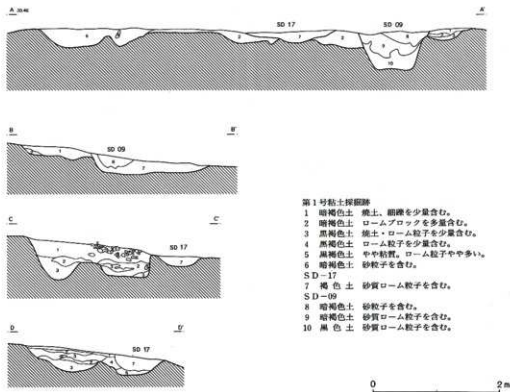
第2号粘土探掘跡 (第169図)

本遺構は第2鋳造遺構群の西側で検出した。台地上の平坦面にあたり北側には第1炭焼き窯、また、中世の第10・12号溝と重複関係にある。

粘土探掘跡は粘土の採取を目的とした竪穴状の土壌である。採取された粘土は溶解炉や羽口、鋳型や鋳造道具の素材として利用されている。本遺跡からは3箇所箇の粘土探掘跡を検出したが、本遺構は地山のローム土を15cm程掘り下げた黄白色および白灰色の粘土を採取している。粘土層の下は小礫を混在する粘土層となりこの層までは掘り込みをしていない。形態は不定形であるが幾重にも探掘土壌が存在した集合土壌と考えられる。北側の長方形および円形の土壌、南側は底面が平坦な部分や凹凸の部分などがあり土壌が重複していると見られる。また壁はなだらかに立ち上がる部分もあればオーバーハングする部分も存在する。全体の規模は東西5.20m、南北3.40m、深さ60cm前



第167图 第1号粘土探掘跡(1)



第168図 第1号粘土採掘跡(2)

後である。しかし、粘土採掘跡は何度も掘られた土壌の最終的な大きさであり、おそらく、北側に見られる方形や円形の掘り込み規模が1回の採掘単位として捉えられる。

注目されることは本遺構が最も古く、第1号炭焼き窯跡や第10・12号溝跡、第2鋳造遺構群の第2号廃滓などが粘土採掘跡の堆積層の上に検出されていることである。

第3号粘土採掘跡 (第170図)

本遺構は第2鋳造遺構群の東側で検出した。台地上の東斜面肩部にあたり北側は調査区域域外である。南側には第100号土壌と重複する。

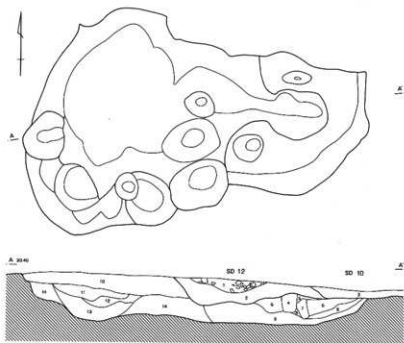
粘土採掘跡は粘土の採取を目的とした竪穴状の土壌である。採取された粘土は溶解炉や羽口、鋳型や鋳造道具の素材として利用されている。本遺跡からは3箇所の粘土採掘跡を検出したが、その中であって最も良質の粘土が採取できると思われる。本遺構は地山のローム土を20cm程掘り抜いた下の黄白色および白灰色の粘土を採取している。粘土層の下は小礫を混在する粘土層となりこの層までは掘り込みをしていない。形態は不定形であるが幾重にも採掘土壌が存在した集合土壌と考えられる。

底面は平坦な部分や凹凸の部分などあり土壌が重複していると見られる。また壁はなだらかに立ち上がる部分があればオーバーハングする部分もある。全体の規模は東西6.70m、南北3.70m±、

深さ32~48cmである。しかし、粘土採掘跡は何度も掘られた土壌の最終的な大きさであり、おそらく、方形や円形の掘り込み規模が1回の採掘単位として捉えられる。

第1号炭焼き窯 (第171図)

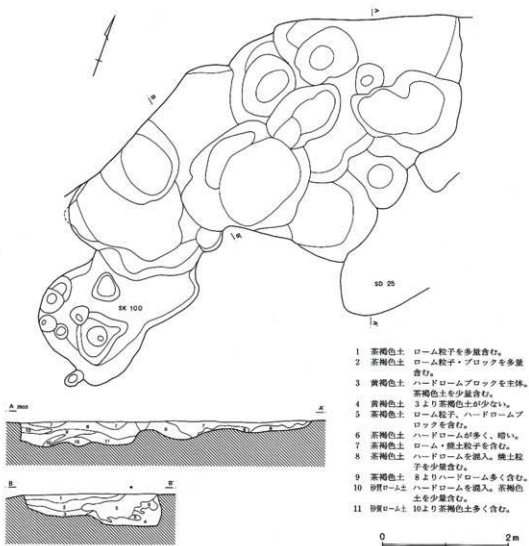
炭化材を伴う細長い炭焼き窯と考えられる土壌である。第2粘土採掘跡の中から検出され、本遺構の方が新しい。断面観察によると第1・2層の褐色土で覆われ、第3層はカチカチに焼けた赤色の焼土層であり窯の天井部分と考えられる。第4層は炭を主体とした黒色層である。底面の第6層は明褐色土の粘質土となる。規模は長軸3.60m、幅0.76m、深さ36cmである。形態は南東方向の溝状の掘り方をもつ炭を多く残す中央部分はやや幅も広く膨らみを持つ。東側の壁面はややオーバーハングし熱を受けガリガリに焼けている。底面は多少凹凸が見られるもののほぼ平坦であり、南東に向けて徐々に掘り込みを浅くさせ段を持って立ち上がる。北西側はなだらかに立ち上がる。



- | | | | |
|----------|-------------------------|---------|----------------|
| SD-12 | 1 暗灰褐色土 糠、伊壁、磁片を含む。 | 8 褐色土 | ローム粒子を僅かに含む。 |
| | 2 暗灰褐色土 焼土粒子、磁片、磁片含む。 | 9 黄褐色土 | ローム粒子・ブロック含む。 |
| SD-10 | 3 灰褐色土 (現代の溝) | 10 褐色土 | 焼土粒子少量含む。やや砂質。 |
| 第2号粘土採掘跡 | 4 暗褐色土 焼土粒子を含む。 | 11 褐色土 | ロームブロックを混入。 |
| | 5 褐色土 | 12 黒褐色土 | ロームブロックを混入。 |
| | 6 黒褐色土 焼土粒子を呑み、しまりやや弱い。 | 13 明褐色土 | ロームブロックを混入。 |
| | 7 暗褐色土 | 14 褐色土 | ロームブロックを混入。 |
| | | | |
| | | | |

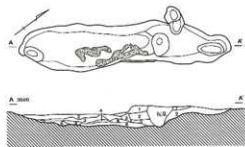
0 2m

第169図 第2号粘土採掘跡



- 1 茶褐色土 ローム粒子を多量含む。
- 2 茶褐色土 ローム粒子・ブロックを多量含む。
- 3 黄褐色土 ハードロームブロックを主体。茶褐色土を少量含む。
- 4 黄褐色土 3より茶褐色土が少ない。
- 5 茶褐色土 ローム粒子、ハードロームブロックを含む。
- 6 茶褐色土 ハードロームが多く、暗い。
- 7 茶褐色土 ローム・焼土粒子を含む。
- 8 茶褐色土 ハードロームを混入。焼土粒子を少量含む。
- 9 茶褐色土 8よりハードローム多く含む。
- 10 砂質ローム土 ハードロームを混入。茶褐色土を少量含む。
- 11 砂質ローム土 10より茶褐色土多く含む。

第170図 第3号粘土探掘跡



- 1 褐色土 ローム粒子を含む。
- 2 褐色土 炭、ローム・ローム粒子少量含む。
- 3 焼土 カチカチに焼けている。
- 4 黒色炭層 炭層。
- 5 焼土 被焼したような上で、カチカチに焼けている。3とは異なる。
- 6 明褐色土 粘質土。ロームブロック混入。

第171図 第1号炭焼き窯跡

(3) 掘立柱建物跡

本区から検出された中世の建物跡は第19号から第21号掘立柱建物跡である。第19号は、本遺跡の中で第23号掘立柱建物跡と並び大型の建物跡である。



第19号掘立柱建物跡 (第172～174図)

○・P-10区に位置する。未調査区を挟んだ東側の調査区西隅にあたる。重複遺構は第10・12・14号溝跡が存在する。第12号溝との重複関係は不明である。建物規模は3×5間の南北棟であるが、身舎部分が1×5間で、東側と西側に庇が取付いている大きな建物である。桁行11.00m、梁行6.60mであり、主軸方向はN-14°-Wである。

柱穴は円形をしており、規模は比較的小さく径0.30～0.64m、深さ22～60cmである。柱間寸法は身舎・庇ともに桁行2.20m、梁行は身舎で4.20m、庇が1.20mである。身舎の妻側は中間柱を検出することはできず非常に長い。また柱穴の一部には根石が残されていた。このうち、柱穴の底面に大きい石を据えるP3・P6・P8・P12・P18と、こぶし以下の小さい石をいくつも敷き詰めるP4・P5・P21・P23の形態が見られた。出土遺物は検出されなかった。

時期は中世と考えられる。



第20号掘立柱建物跡 (第175図)

R-11区に位置する。東側調査区の南西にあたる。本建物の周辺には小規模の柱穴が多く確認され居住域となっていたことが窺える。北側には第13号溝跡が平行して東西に走り、第5・6・7号井戸跡を検出した。東側には第21・22・23号掘立柱建物跡が存在する。また、西側には第117号土壇(竪穴状遺構)が位置する。

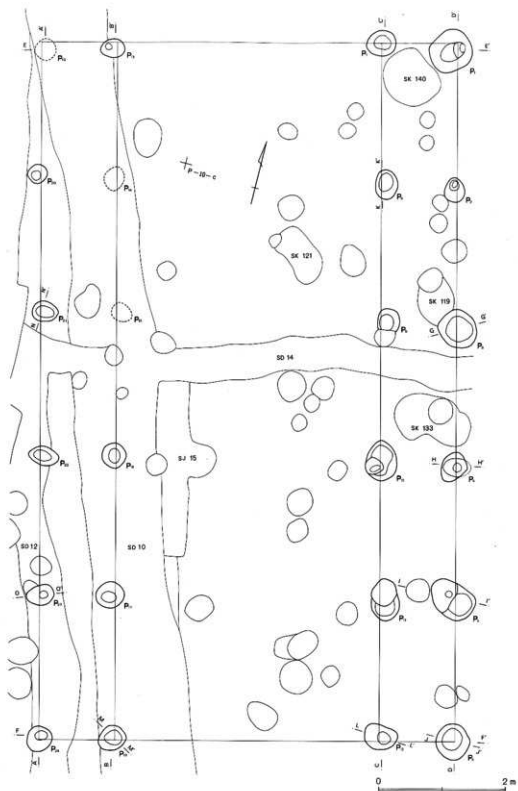
2×3間の東西棟の建物である。桁行5.60m、梁行4.00mであり、主軸方向はN-63°-Eである。柱穴は円形をしており、規模は小さく径0.30～0.48m、深さ13～45cmである。柱間寸法は変則的でありP1とP2の桁行は1.80m、P2とP3は1.60m、P3とP4は2.20mである。妻側のP5とP10が柱筋よりも内側に位置していることからP1・P8の隅柱を梁行寸法とする。柱痕は断面観察によると第2層の黒褐色土である。出土遺物は検出されなかった。

時期は中世と考えられる。

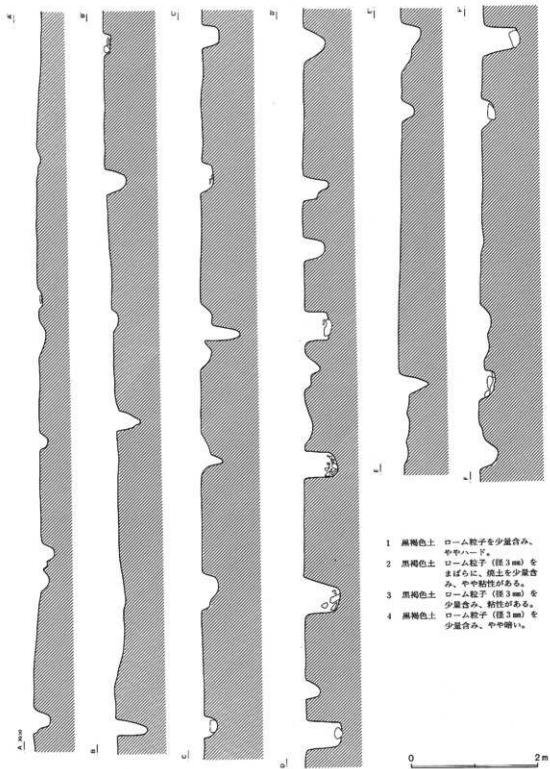


第21号掘立柱建物跡 (第176図)

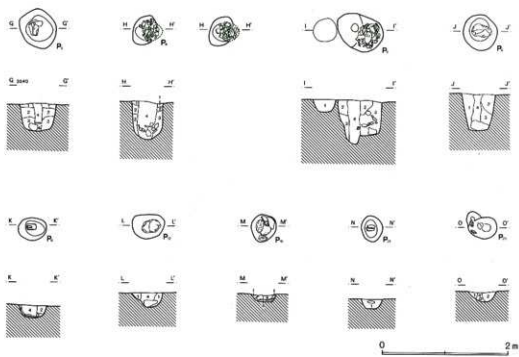
R・S-12区に位置する。第20号と第22号掘立柱建物跡の中間にあたる。また主軸方向をほぼ同じくする第23号掘立柱建物跡が北東に検出された。建物規模は2×3間の東西棟であるが、北側の柱間は中間柱が1本だけの2間と変則的である。桁行5.00m、梁行4.60mであり、主軸方向はN-10°-Wである。



第172图 第19号独立柱建物跡(1)



第173図 第19号掘立柱建物跡(2)



第174图 第19号掘立柱建物跡(3)



Pit 5



Pit 6

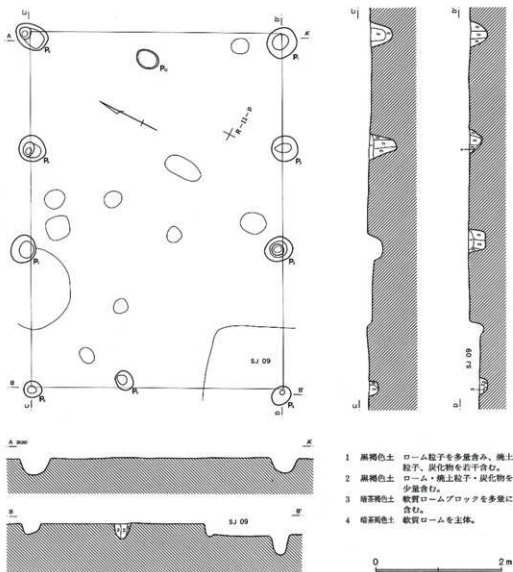


Pit 12



Pit 18

第19号掘立柱建物跡



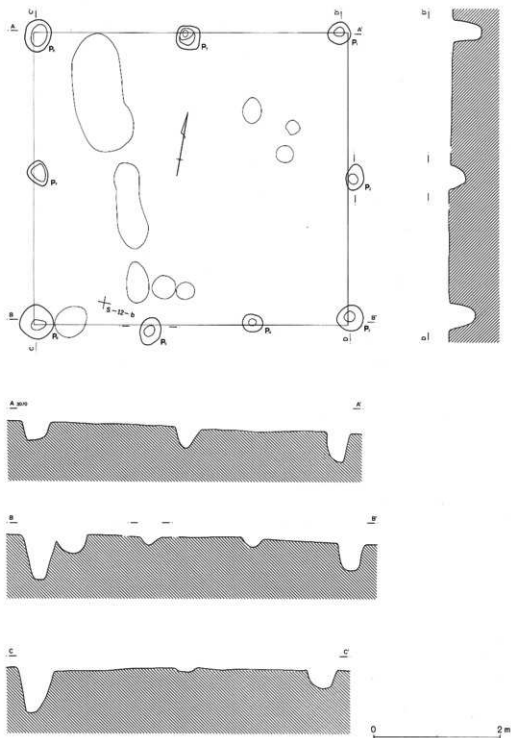
第175図 第20号掘立柱建物跡

柱穴は円形をしており、規模は比較的小さく径0.33~0.55m、深さは13~72cmを測るが、隅柱はやや深く中間の柱は非常に浅い。柱間寸法は梁行2.30m等間であるのに対し、桁行はP3・P4・P5が1.60m、P5とP6間は1.80mである。出土遺物は検出されなかった。

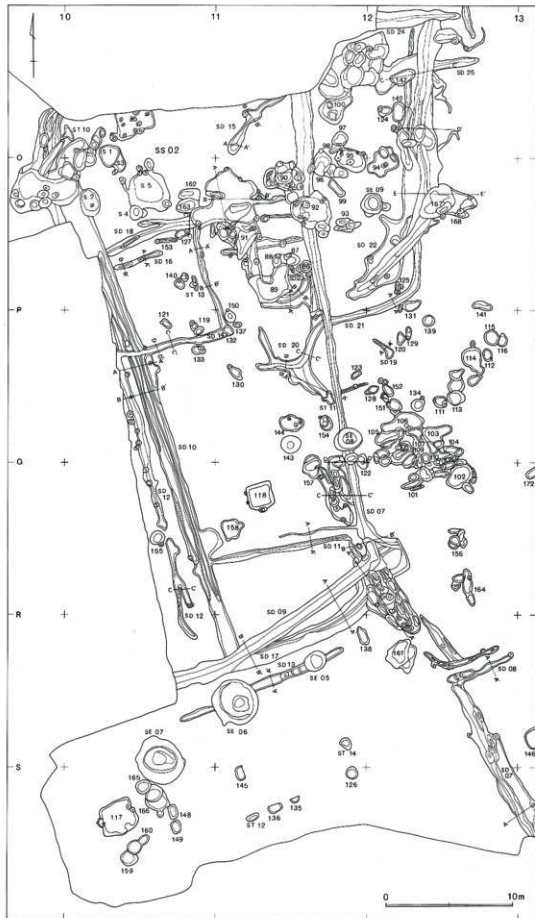
時期は中世と考えられる。

第16表 第2区掘立柱建物跡一覧表

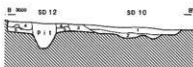
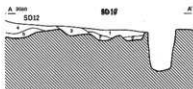
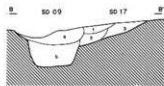
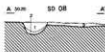
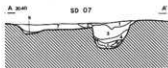
新番号	旧番号	位	置	重複	遺構	間×間	桁行	梁行	主軸方向	時期
SB-19	SB-17	O-10	P-10	S J-16	S D-08, 10, 12 S K-90	3×5	11.00	6.60	N-14°-W	中世
20	14	R-11		S J-09		2×3	5.60	4.00	N-63°-E	中世
21	20	R-12	S-12			2×3	5.00	4.60	N-10°-W	中世



第176图 第21号掘立柱建物跡



第177图 第2区沟迹·井尸迹·土壤配置图



SD-07

- 1 暗褐色土 小石、白色バミス、赤色スコリアを含む。
- 2 暗褐色土 1に近似するが、砂質でソフト。
- 3 暗褐色土 砂が入る。部分的に焼土粒子も含む。ソフト。
- 4 暗褐色土 焼土粒子を若干含むが、粘性強い。
- 5 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 6 暗褐色土 4に類似。更にきめ細かく、ソフト。
- 7 暗褐色土 白色バミス、赤色スコリアを含む。1より黒味を増す。
- 8 黄褐色土 ローム質。
- 9 暗褐色土 多量の伊壁、鈣屑片と、焼土・砂粒子を少量含む。硬くしまる。
- 10 暗褐色土 砂質ローム粒子を含む。硬くしまる。
- 11 灰褐色土 暗黄色の砂粒を含む。硬くしまる。
- 12 暗褐色土 焼土粒子、磁器を少量含む。
- 13 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。
- 14 黒褐色土 焼土・ローム粒子を少量含む。
- 15 黒褐色土 ローム粒子少量含む。
- 16 黒褐色土 ローム粒子多く含む。やや粘質。

SD-08

- 1 暗褐色土 小石、砂を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 小石、焼土粒子が顕著。基底層は全体によく焼けている。

SD-11

- 1 褐色砂質土 焼土粒子、火山灰（洗炭A?）を含み、しまりなし。

SD-09・17

- 1 暗褐色土 焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 膠やが多い。
- 3 暗褐色土 膠（径1~5cm大）を多量含む。
- 4 暗褐色土 膠、黒色土を含む。
- 5 黒色土 膠、ロームブロックを含む。
- 6 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 7 黄褐色土 ローム土を主体。

SD-10・12

- 1 黒褐色土 ローム粒子を含む。（現代の溝）
- 2 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 3 黒褐色土 ややしまりよい。
- 4 黒褐色土 ローム・焼土粒子を含み、しまりよい。
- 5 黒褐色土 ローム・焼土粒子を含み、ややハード。

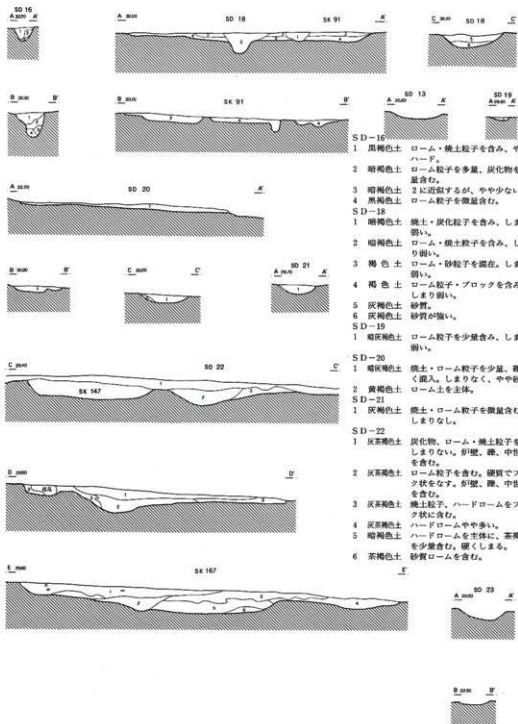
SD-14

- 1 暗褐色土 ローム・焼土粒子を含み、ややソフト。
- 2 暗褐色土 ローム・焼土粒子を含み、やや暗い。

SD-15

- 1 暗褐色土 焼土・炭化粒子を含み、きめやや粗雑。
- 2 褐色土 ローム粒子・ブロック、焼土粒子を含む。
- 3 褐色土 ローム粒子を含み、しまり弱い。
- 4 黄褐色土 ローム粒子・ブロック、焼土粒子を含む。

0 2m



- SD-16
- 1 黒褐色土 ローム・焼土粒子を含み、ややハード。
 - 2 暗褐色土 ローム粒子を多量、炭化物を少量含む。
 - 3 暗褐色土 2に近似するが、やや少ない。
 - 4 黒褐色土 ローム粒子を微量含む。

- SD-18
- 1 暗褐色土 焼土・炭化粒子を含み、しまり弱い。
 - 2 暗褐色土 ローム・焼土粒子を含み、しまり弱い。
 - 3 褐色土 ローム・砂粒子を混在、しまり弱い。
 - 4 褐色土 ローム粒子・ブロックを含み、しまり弱い。
 - 5 灰褐色土 砂質。
 - 6 灰褐色土 砂質が強い。

- SD-19
- 1 暗灰褐色土 ローム粒子を少量含む、しまり弱い。

- SD-20
- 1 暗灰褐色土 焼土・ローム粒子を少量、雑多く混入。しまりなく、やや砂質。
 - 2 黄褐色土 ローム土を主体。

- SD-21
- 1 灰褐色土 焼土・ローム粒子を微量含む。しまりなし。

- SD-22
- 1 灰茶褐色土 炭化物、ローム・焼土粒子を含み、しまりない。灰壁、鏝、中世陶器を含む。
 - 2 灰茶褐色土 ローム粒子を含む。硬質でブロック状をなす。灰壁、鏝、中世陶器を含む。
 - 3 灰茶褐色土 焼土粒子、ハードロームをブロック状を含む。
 - 4 灰茶褐色土 ハードロームやや多い。
 - 5 暗褐色土 ハードロームを主体に、茶褐色土を少量含む。硬くしまる。
 - 6 茶褐色土 砂質ロームを含む。

0 2 m

第179図 第2区溝跡土層図(2)

(4) 溝 跡

本区からは第7～25号溝を検出した。この内、第7・12・22号溝跡の覆土中からは鋳造遺物や8世の陶磁器を多量に検出し、第9・10・15・17・18・20からも遺物を検出した。

第7号溝跡

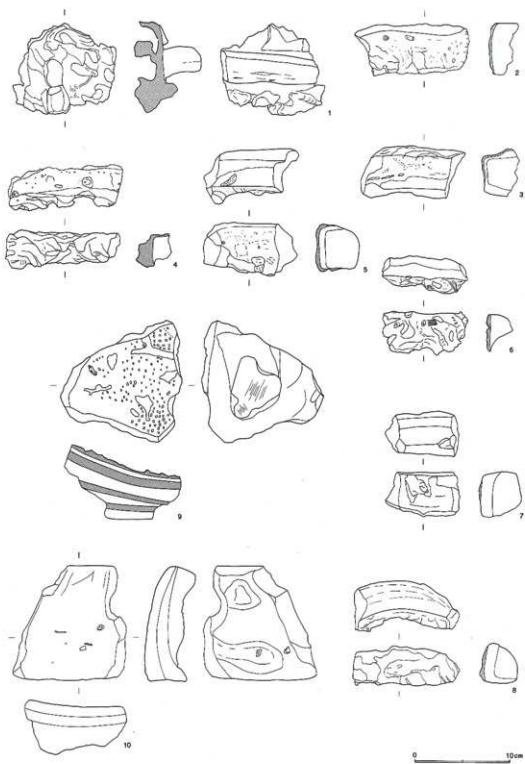
第7号溝は東側調査区の南側にあたり地形に沿って南北方向に伸びる。溝の北端は第1号粘土採掘跡と重複する。全長33.20m、幅1.80m、深さ40cmで断面「U」字型のしっかりとした掘り方の溝跡であった。遺物は溝が第4～6層の堆積土で埋まり、まだほとんど埋まり切らない第3層中から検出した。この第3層は鋳造遺物を主体とした堆積層であり、炉壁・滓・鋳型等を含む廃滓層と考えられ第7号溝の機能が停止した後に捨て場として利用されたと考えられる。

遺物は第180～183図の1～44である。1～8は環状の粘土紐である。内面および上下面の一部には湯滓の溶解物が付着する。このことは溶解炉の炉壁の一部と考えられるが環状の粘土紐である点でこれまで検出された炉壁とは異なる。機能的な面から考えれば何段かに分けて組み合わせる溶解炉を想定すれば本体を繋ぐジョイント的な炉壁と見られる。「倉吉の鋳物師」によれば溶解炉に「ねなわ」・「クライ」の存在を報告しており本資料がこのいずれかの可能性を推定できる。ねなわとはこしきと下こしきの合わせ目に使われ、クライは下こしきとル(鋳)との合わせ目に使われる。これらは重ね合わせたこしき・下こしき・ルの継ぎ目から火が漏れるのを防ぎ、また、湯やノロによってルとこしきが密着することを防ぎ、こしきの取り外しを少しでも容易にし、こしきの破損を防ぐ機能をもつ。炉壁は9～12である。9は底部に近い部分と見られ、破断面の観察から湯滓層が4層見られ溶解炉が数回にわたり修復して使用されたものと考えられる。内面の溶解物を付着させる湯滓面は細かな気泡が全体に見られ、色調は白色～紫紅色で部分的に鈍い黒色の流動性のある湯滓が着く。間層に見られる粘土は砂粒子・白色粒子・滓粒等を混入させる。裏面の炉壁粘土は平坦で擦痕がみられることから砥石として転用されたものと考えられる。10は溶解炉の中でも上位部分の上こしき部と見られる。本遺跡において極めて数少ない貴重な資料である。素材は粘土で普通の炉壁片と変わらないが、内面には溶解物の付着はなく熱を受け表面は還元され黒灰色～青灰色で、裏面は赤茶褐色である。形態は上下面に幅3.0～3.5cmの平坦な面をもち炉壁を重ね合わせる際の合わせ部分と考えられる。体部は外に開いて立上がり、下端で推定直径47.2cmの内縁径をもつ。全体の形状は逆「ハ」の字に開く環状と考えられる。

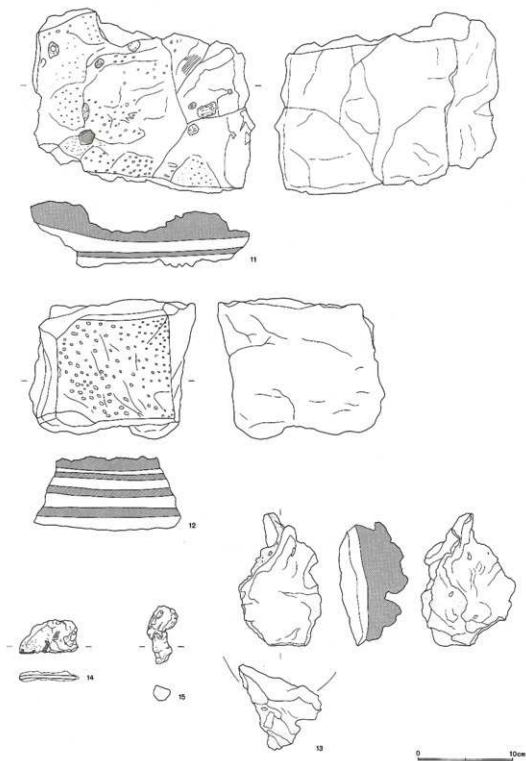
11は本遺跡の中で大型の炉壁片である。溶解炉炉底から胴部に立上がる腰の部分と見られ、内面の湯滓面には気泡が見られ鉄塊系遺物の付着が認められる。色調は全体に黒色である。12は炉壁底部に近い部分と考えられる。断面に4層の湯滓面が見られ修復して使用されたものと考えられる。

13は羽口である。羽口下端の資料と見られ、湯滓が屏風状に下に向けて育っている。先端方向から見て左側は鈍い黒～紫紅色で、右側は羽口先端特有に見られる細かいザラザラとした青灰色の風化面である。内面は送風により空気に触れるためか赤褐色である。先端からの残存長さは12.5cmであり、少なくとも溶解炉内にこれだけの長さが突き出ていたものと考えられる。

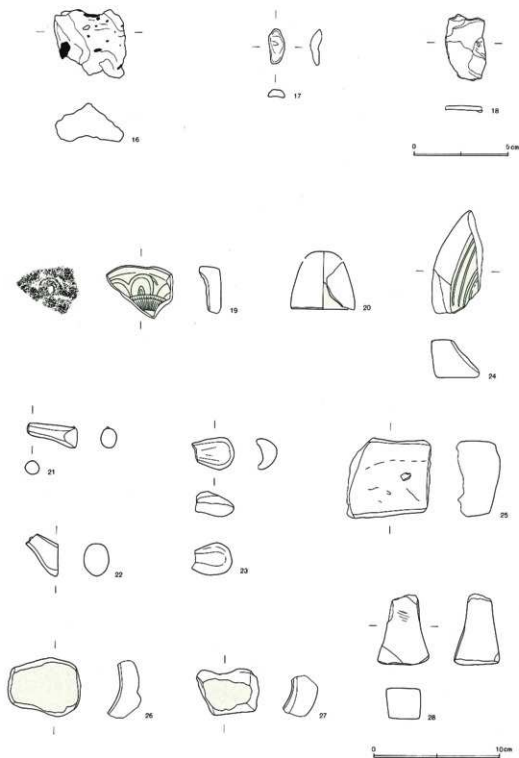
鉄塊は14・15・18である。いずれも鋳造品の破片と見られ15は鉄鍋の内耳の破片の可能性がある。



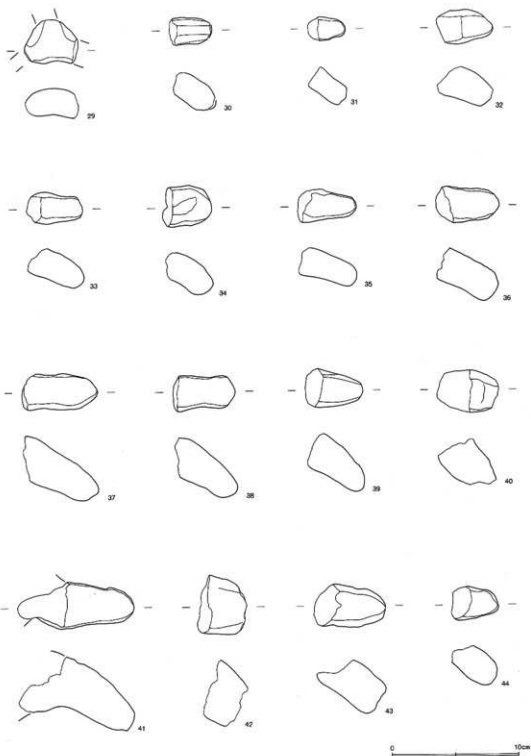
第180图 第7号清跡出土遺物(1)



第181图 第7号溝跡出土遺物(2)



第182图 第7号清跡出土遺物(3)



第183图 第7号清跡出土遺物(4)

16は銅滓であり灰色の湯面に緑青の粒が着く。17は全体が緑青の吹く銅塊である。鑄型は19～27である。19は複弁の梵鐘撞座と考えられる。20は円錐状の製品が想定されつまみ部分の鑄型と見られる。24は梵鐘龍頭片の一部である。21～23は注ぎ口の中子および外型である。26・27は容器鑄型である。

道具は28～44である。28は砥石である。29～44は三叉状土製品である。本遺跡に於いて最も出土点数が多かった。三叉状土製品は容器や鍋の鑄型の内部に置き焼き炭を立てかける道具で炭と接する表面が被熱し還元面が残る。この還元面を観察することで使用したかどうかを判断できる。

第7号溝跡出土鑄造遺物観察表 (第180～183図)

番号	遺物種類	長さ	幅	厚さ	重さ	他の測値	備	考	分類
1	炉壁 粘土帯	10.2	9.5	6.6	375		R-12-p-4		炉1
2	炉壁 粘土帯	5.3	12.0	2.8	120		R-12-k-3		炉2
3	炉壁 粘土帯	5.1	9.6	5.0	175		R-12-k-3		炉2
4	炉壁 粘土帯	4.2	11.6	2.8	126		R-12-k-3		炉2
5	炉壁 粘土帯	5.1	8.5	4.5	203		R-12-p-4		炉2
6	炉壁 粘土帯	4.3	8.9	2.7	80		R-12-k-3		炉1
7	炉壁 粘土帯	4.6	7.8	4.5	160		R-12-p-1		炉1
8	炉壁 粘土帯	5.0	11.3	4.0	182		R-12-k-3		炉2
9	炉壁	12.4	12.2	5.7	560		Q-11-d-5		炉2
10	炉壁	12.0	11.5	5.2	592		R-12-k-6		炉1
11	炉壁	17.0	23.0	6.4	1795		Q-11-d-4		炉2
12	炉壁	15.5	14.4	7.6	1700		Q-11-d-5		炉1
13	羽口	12.7	8.5	12.1	350	直径(13.0)	Q-11-h-5		羽口
14	鉄塊系遺物	3.5	6.2	1.0	30		R-12-k-2		塊2
15	鉄塊系遺物	6.0	2.7	1.4	36		R-12-p		塊2
16	銅滓	3.5	3.7	1.7	30				銅1
17	銅滓	1.8	0.8	0.4	4		R-12-h-3		銅1
18	鉄塊系遺物	3.2	2.0	0.3	9		R-12-p		塊2
19	梵鐘 撞座	4.0	5.2	1.5	29		R-12-k-6		鑄型
20	仏具 つまみ	3.7	5.0		33	内径3.0 内高2.0	R-12-a-3		鑄型
21	鉄瓶 注口中子	4.0		1.5	10		R-12-k-2		鑄型
22	鉄瓶 注口中子	3.5		2.5	12		R-12-k-3		鑄型
23	鉄瓶 注口	2.5	3.1	1.2	11		R-12-k-3		鑄型
24	梵鐘 龍頭	7.1	3.9	3.0	83		R-12-p		鑄型
25	不明	6.3	6.4	3.4	125		R-12-k-2		鑄型
26	容器	4.0	5.3	1.9	50		Q-11-d-5		鑄型
27	容器	2.4	3.8	2.1	38		Q-11-d-5		鑄型
28	砥石	5.4	4.0	2.4	85		Q-11-h-2		石
29	三叉状土製品	3.4	4.3	2.1	31		R-12-g-8		土器
30	三叉状土製品	3.3		2.0	16		Q-12-m-5		土器
31	三叉状土製品	3.0		1.7	12		R-12-p-4		土器
32	三叉状土製品	3.9		2.5	29		R-12-l-7		土器
33	三叉状土製品	4.2		2.3	26		R-12-p-2		土器
34	三叉状土製品	4.3		2.2	30		R-12-g-8		土器
35	三叉状土製品	4.8		2.3	25		R-12-l-4		土器

番号	遺物種類	長さ	幅	厚さ	重さ	他の測値	備	考	分類
36	三叉状土製品	4.8		2.6	38		R-12-g-8		土器
37	三叉状土製品	7.1		3.1	53		R-12-k-2		土器
38	三叉状土製品	6.0		2.9	45		R-12-g-6		土器
39	三叉状土製品	5.1		2.8	38		R-12-o-3		土器
40	三叉状土製品	3.8		3.2	47		S-13-e-1		土器
41	三叉状土製品	7.5		3.9	100		R-12-p-1		土器
42	三叉状土製品	4.6		2.8	60		R-12-k-3		土器
43	三叉状土製品	5.1		3.0	50		R-12-g-5		土器
44	三叉状土製品	4.0		2.4	21		R-12-k-6		土器

第12号溝跡

第12号溝跡は東側調査区の西隅を南北方向に伸びる。重複遺構は第10号溝跡・第2号粘土採掘跡である。本溝は第10号溝よりも古いと考えられる。

検出した遺物は、鋳造遺物が1～5である。1・2が鉄塊系遺物であり、1は鉄鍋の内耳部分の破片と見られる。3・4は第7号溝からも検出された環状の粘土紐でねなわと見られる。5はまんじゅう型の粘土塊で不明である。

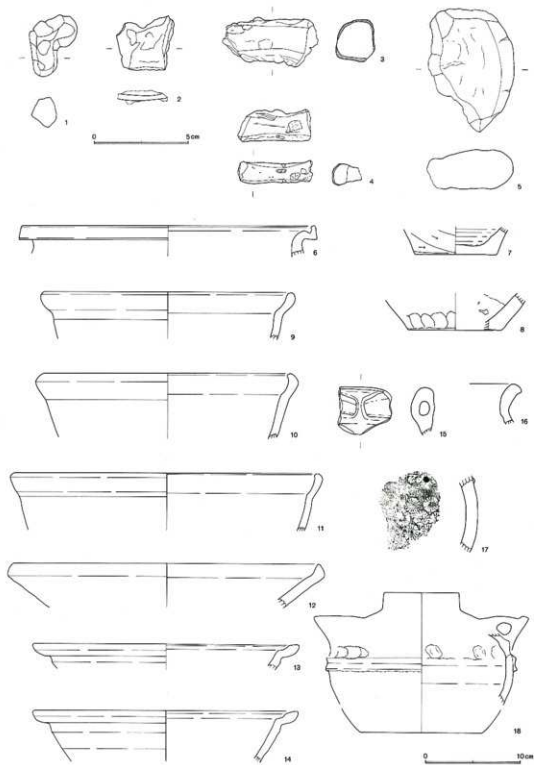
6～18は土器である。6は常滑系の壺口縁である。口唇部の形態は上方に突出し、下方は水平に造られ垂れず13世紀後半の遺物と見られる。9～11・15は在地産の内耳鍋である。13・14は折り鉢の瀬戸系鉢である。17は火鉢であり、器内は白色で器面は黒色である。外面には、口縁部に径8mmの連珠が張り付き、円形の菊花状のスタンプが施される。18は土釜の破片である。

第12号溝跡出土鋳造遺物観察表 (第184図)

番号	遺物種類	長さ	幅	厚さ	重さ	他の測値	備	考	分類
1	鉄塊系遺物	3.3	1.7	1.5	15		O-9-d-2		塊2
2	鉄塊系遺物	2.7	3.0	0.7	10		O-9-d-2		塊2
3	炉壁 粘土帯	10.1	5.0	4.0	135				炉2
4	炉壁 粘土帯	3.3	7.7	2.2	49		O-9-d-5		炉2
5	粘土塊	12.8	9.0	4.1	382		N-9-p-2		粘土

第12号溝跡出土遺物観察表 (第184図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他	産地
6	壺	(31.0)	3.2		BDHI	A	茶褐色	5%	P-10覆土	常滑
7	梅瓶		2.9	8.7	BDI	A	灰褐色	20%	P-10	常滑
8	壺		3.9	10.0	DI	A	茶褐色	10%	O-10覆土	常滑
9	内耳鍋	(26.2)	4.9		BCDEG	B	灰褐色	8%	P-10	在地
10	内耳鍋	(26.2)	6.9		CDEG	B	黄褐色	15%	O-10覆土	在地
11	内耳鍋	(32.0)	6.0		CDEG	B	灰褐色	5%	P-10	在地
12	鉢	(32.2)	4.6		CD	B	赤褐色	5%	O-9-d-1	在地
13	鉢	(28.0)	2.6		I	A	黄褐色	10%	P-10	瀬戸
14	鉢	(27.8)	5.3		I	A	黄褐色	10%	P-10	瀬戸
15	内耳鍋		5.0		CDEGI	B	褐色	1%	O-9-d-9	在地
16	壺		4.0		CD	B	褐色	15%	O-9-d O-9-d-9	在地
17	火鉢		8.0		I	C	黒褐色	5%	O-9-d-2	在地
18	土釜		7.5		CDEGI	B	灰色	10%	O-9-d-8	在地



第184图 第12号清跡出土遺物

このほか、N-9・O-9グリッドにあたる部分からは多量の石を検出した。N-9-P-2；9.8kg、N-9-P-5；4.2kg、N-9-P-8；42.7kg、O-9-d-2；18.55kg、O-9-d-5；22.2kg、O-9-d-6；12.4kg、O-9-d-8；6.7kg、O-9-d-9；14.7kg、O-9-h-3；22.3kg、O-9-h-6；7.3kgであった。

第22号溝跡

第22号溝は第2 鑄造遺構群の東を南北方向に伸びる。東緩斜面の肩部を地形に沿って造られている。覆土中からは多量の石と共に鑄造遺物を多く検出した。

炉壁は1～6・8である。1は炉底部の破片で2枚の溶解面が見られる。3・4は胴部のこしき炉壁片と考えられる。炉壁は弧を描く形態をもち、内面の湯滓は上下方向の垂れをもつ。炉底部に見られたような気泡はなく全体に起伏はあるものの平滑な面を造る。部分的に鉄塊系遺物の付着が見られ色調は鈍い黒褐色である。5は溶解炉の上端と考えられ、端部は幅4cmの平坦面をもつ。内面は還元面をもつが湯滓の付着は見られない。6も同様の資料であるが内面には湯滓が付着する。8はこしきの胴部破片と見られ黒色の湯滓面に緑青が吹く。

7は羽口である。端部を残した下方の破片と見られ、湯滓が垂れて屏風状に伸びている。正面左側は紫紅色の湯滓面であるが、右側は青灰色の風化状の面である。

9は銅滓と考えられる濃いグリーン色の滓である。

鉄塊は10～13であり、12・13は鑄造品の破片と見られる。

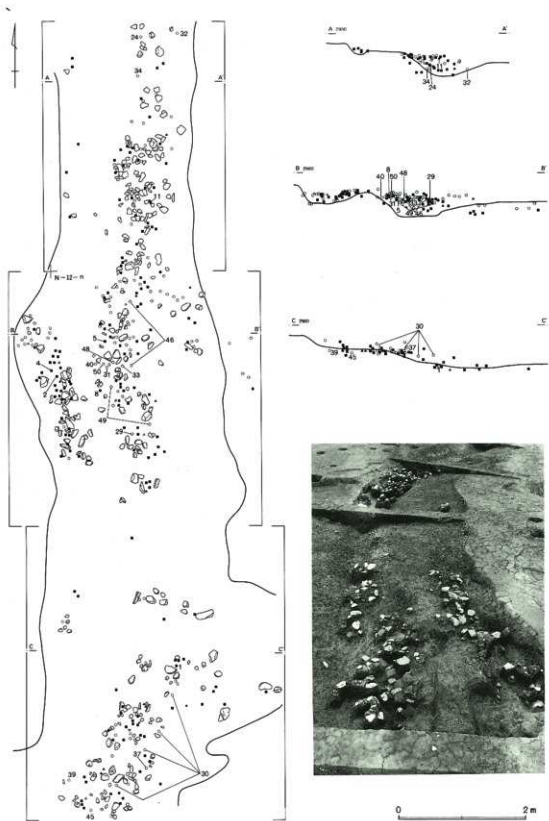
14は弧を描く小型の破片で炉壁の一部と考えられる。内面には溶解物の付着が付き外面は粘土である。しかも、内径2.2cm程であり溶解炉のノミ口と考えられる。

土器は19～53を検出した。15～23は常滑系の陶器である。15～17は貼り付け高台の鉢。18～23は壺である。24は備前産の摺鉢と見られる。25・26は龍泉窯系の青磁碗。27～30は瀬戸系で27は底部回転糸切り痕の見られる灰軸小皿、28は四耳壺の口縁部分である。29は盤、30は平碗である。31～42は在地産の片口鉢である。43～48はやはり在地産の内耳鍋、49・50は在地の武蔵型壺である。

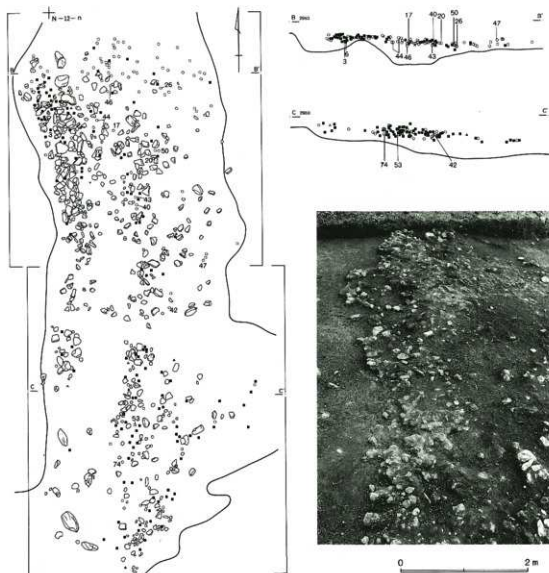
道具は51～53の砥石と71・72の鉄製篋、74～77の三叉状土製品を検出した。

鋳型は54～70・73である。このうち54～68はいずれも短脚ながら幅のある獅鬚の獸脚である。69・70・73は壺の脚の本体と考えられる容器鋳型である。

本溝跡からは多量の石と共に多くの遺物を検出した。これらの遺物から溝の機能や時期を考えて見ると、鑄造遺物の多さが目に付く、鉄滓や炉壁をはじめ鉄塊・銅系の滓に及ぶ。また、鋳型は他の鑄造遺構群には見られない大型の獸脚鋳型を検出した。鋳型の粘土はきめの細かいもので掘りの深い顔つきである。また、合わせて容器鋳型も検出されておりやや大型の獸脚付容器の鑄造を周囲で行っていた可能性が強い。溝の西側は未調査区(基地部分)になるが一段高い地形であり、この部分に仏具生産のための鑄造遺構群が残されていることが予測できる。となると、本溝は第3区に見られるような斜面部裾に掘られた第30号溝と同様、未調査区の鑄造遺構群の裾に造られた溝の機能が考えられる。時期は出土遺物からも16の高台の残る常滑の片口鉢や20の口唇部が水平に伸びる形態の壺、28の瀬戸四耳子の破片などは鑄造時期の遺物と考えられ、また、在地産の内耳鍋や片口鉢、



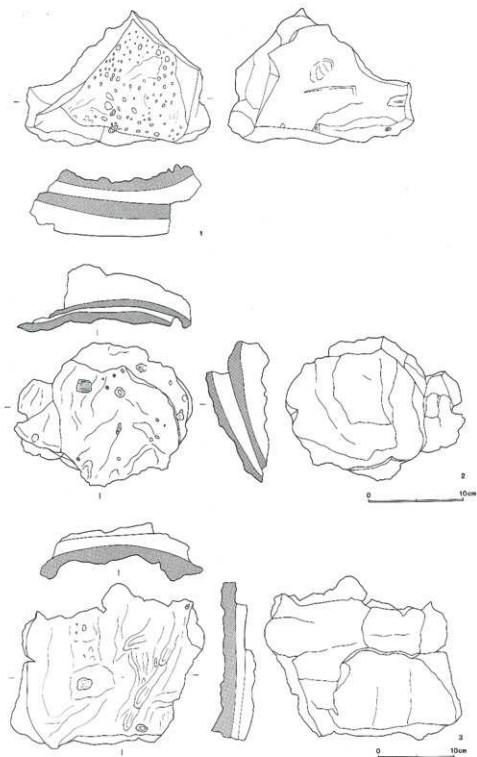
第185图 第22号洞跡遺物分布図(1)



第186図 第22号溝跡遺物分布図(2)

第22号溝跡出土遺物観察表 (第185~194図)

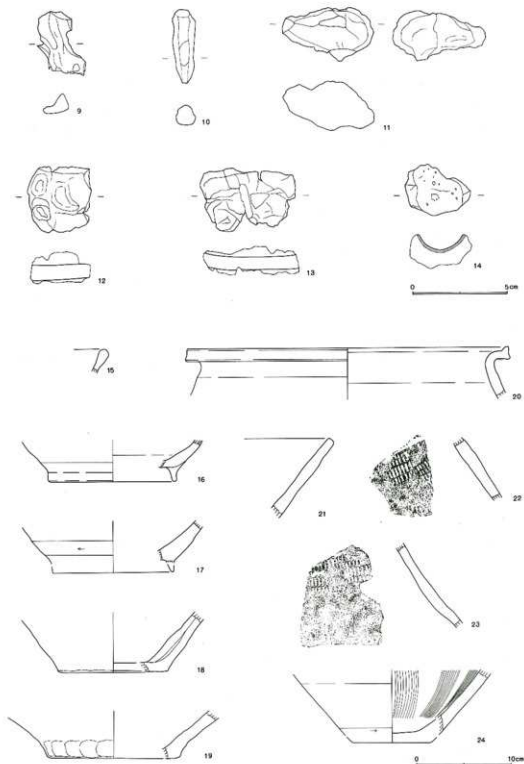
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他	産地
15	片口鉢				I	B	灰色		L-12-n-2	常滑
16	片口鉢		4.3	13.6	CD	B	灰色	10%	L-12-j-8	常滑
17	片口鉢				CDG	A	赤茶色	5%	No.678	常滑
18	甕		6.1	11.6	AD	A	黒褐色	10%		常滑
19	片口鉢		5.0	14.0	CDG	B	茶褐色	10%		常滑
20	甕	(34.0)	5.4		BD I	A	茶褐色	5%	No.524	常滑
21	片口鉢				B	A	茶褐色	5%	L-12-j-8	常滑
22	甕				C I	A	灰褐色	1%	L-12-j	常滑
23	甕				C I	A	灰褐色	1%	M-12	常滑
24	擂鉢				B	A	明褐色	20%	No. 1141	備前



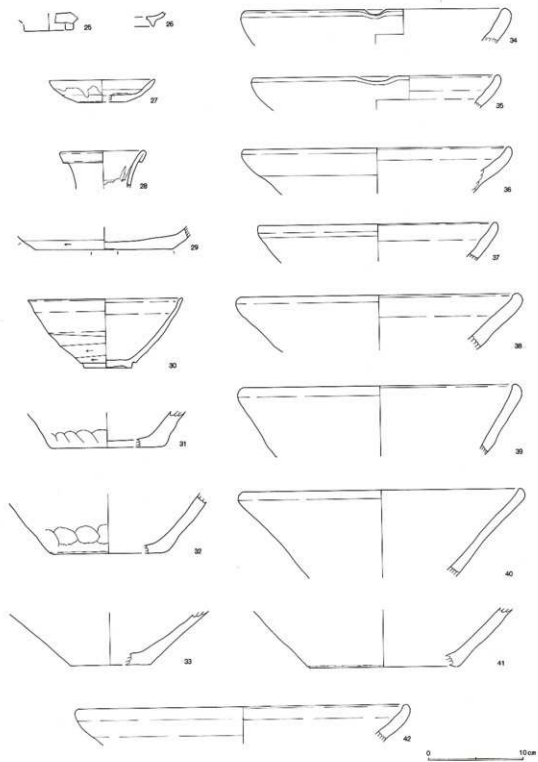
第187圖 第22号洞跡出土遺物(1)



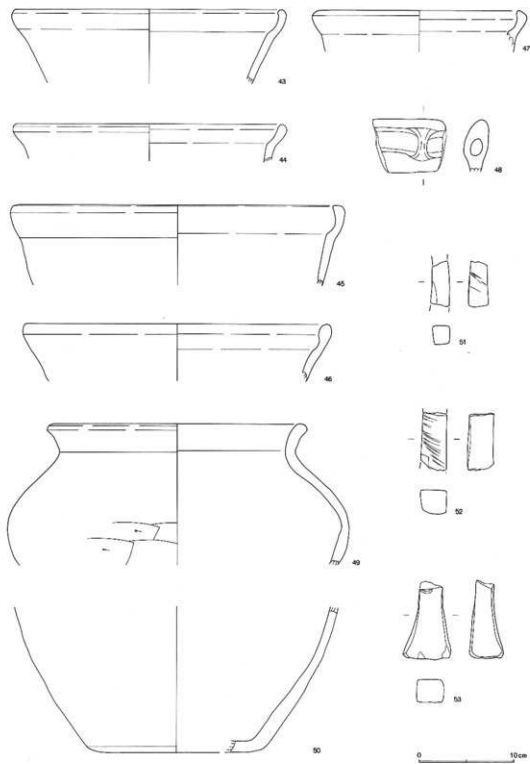
第188图 第22号洞跡出土遺物(2)



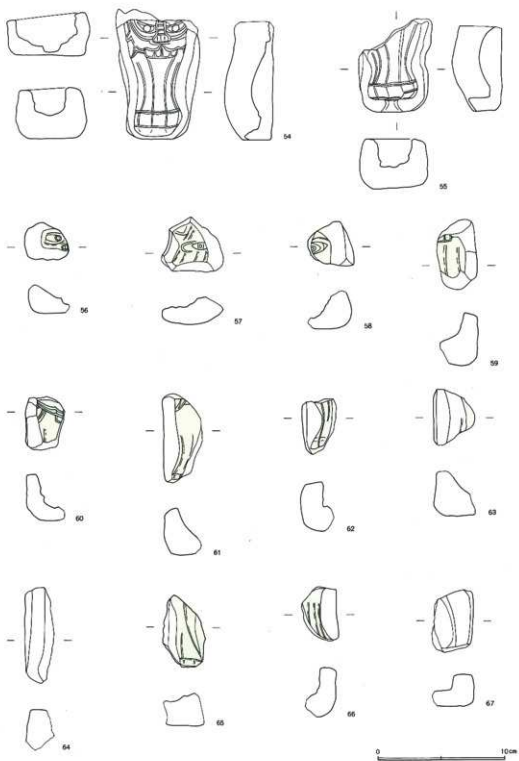
第189图 第22号洞跡出土遺物(3)



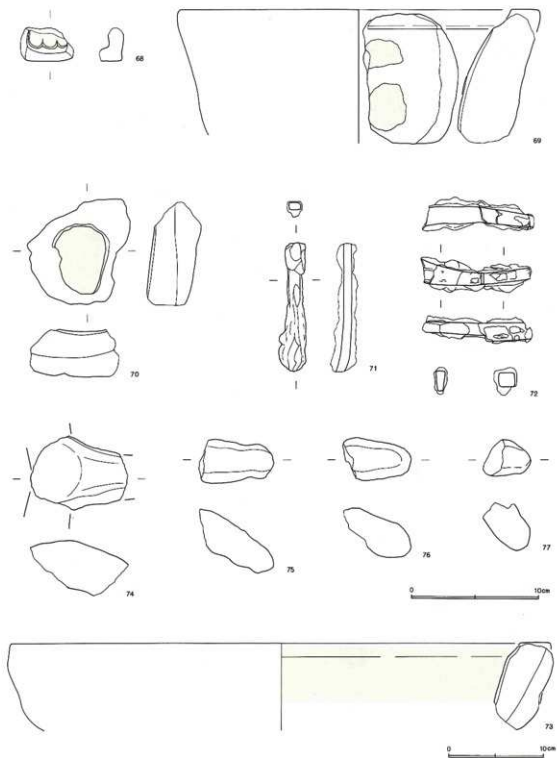
第190图 第22号清跡出土遺物(4)



第191圖 第22号清跡出土遺物(5)



第192图 第22号洞跡出土遺物(6)



第193图 第22号满迹出土遗物(7)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成色調	残存	出土位置・その他	産地
25	青磁碗				I	A 緑色	5%	碗 I	中国・龍泉
26	青磁碗				I	A 青緑色	5%	No.668 碗 III	中国・龍泉
27	灰釉小皿	11.0	2.3	5.1	BI	A 褐色	40%		瀬戸
28	四耳壺	8.7	3.9		I	A 灰褐色	10%	M-12-c-2	瀬戸・美濃
29	盤		2.4	14.4	BI	A 淡褐色	20%	No.962	瀬戸
30	平碗	16.3	7.3	4.9	I	A 淡褐色	70%	No.770, 803, 804, 812	瀬戸
31	片口鉢		3.7	(11.6)	EG	C 白色	20%	No.1034	在地
32	片口鉢		6.3	(11.4)	CDEG	B 褐色	25%	No.1140	在地
33	片口鉢		5.5	(8.4)	CDG	B 褐色	20%	No.1038	在地
34	片口鉢	27.4	3.6		CDEG	B 茶褐色	5%	No.1138	在地
35	片口鉢	26.0	3.5		CDEG	B 黒褐色	10%		在地
36	片口鉢	20.0	4.8		ACG	B 黒褐色	5%	No.810 胎土分析 No.6	在地
37	片口鉢	25.2	3.9		ADGH	B 赤褐色	5%	L-12-k-2	在地
38	片口鉢	29.2	5.8		CDG	A 青灰色	5%	No.815	在地
39	片口鉢	29.0	4.8		CDEG	B 黒褐色	10%	No.605, 1032胎土分析 No.5	在地
40	片口鉢	29.2	9.2		CDEG	B 乳白色	10%	L-12-j-8	在地
41	片口鉢		6.0	(13.6)	ACDG	B 赤褐色	5%		在地
42	片口鉢	34.8	3.9		CDEG	B 黒褐色	10%	No.733	在地
43	内耳鍋	(28.2)	7.7		CDEG	B 灰褐色	10%	No.554胎土分析 No.11	在地
44	内耳鍋	(28.0)	3.7		CDEG	B 灰褐色	10%	No.675, 677胎土分析 No.15	在地
45	内耳鍋	(33.2)	8.4		CDEG	B 褐色	10%	No.814	在地
46	内耳鍋	(32.0)	6.0		CDEG	B 灰色	15%	No.368, 983, 998胎土分析 No.12	在地
47	内耳鍋	21.0	4.3		CDEG	B 褐色	10%	No.573	在地
48	内耳鍋		5.7		CDEGI	B 灰褐色	1%	No.1037	在地
49	甕	(26.0)	14.9		ABCD	B 褐色	20%	No.958, 973胎土分析 No.1	在地
50	甕		15.3	18.9	ACDF	B 褐色	10%	No.521, 10360-11-a-4	在地

第22号満跡出土鑄造遺物観察表 (第185~194図)

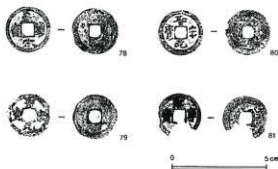
番号	遺物種類	長さ	幅	厚さ	重さ	他の測値	備考	分類
1	炉壁	13.8	19.5	6.6	1095		No.772	炉2
2	炉壁	15.0	18.5	6.1	885		No.1085	炉1
3	炉壁	24.0	20.3	4.7	1540		No.332	炉1
4	炉壁	13.8	16.3	5.0	810		No.1084	炉2
5	炉壁	8.1	12.8	6.2	690	内径49.0	No.1026	炉1
6	炉壁	9.8	15.6	6.8	895		No.335	炉1
7	羽口	9.5	10.5	3.8	220	直径(10.0)	L-12-n-8	羽口
8	炉壁	9.5	6.5	3.5	194		No.948	炉4
9	鉄滓	3.1	2.0	0.7	8		M-12-g-3	他の滓
10	鉄塊系遺物	3.8	1.2	1.0	10			塊2
11	鉄塊系遺物	2.7	4.8	2.5	43		No.1150	塊1
12	鉄塊系遺物	3.4	3.4	1.6	25			塊2
13	鉄塊系遺物	3.3	5.0	1.4	26			塊2
14	炉壁 ノミ口	2.5	3.4	1.1	6		L-12-n-3	炉1
51	砥石	4.2	2.0	2.0	35			石
52	砥石	6.0	2.7	2.5	78			石
53	砥石	8.2	5.0	2.4	148		No.181	石
54	鉄脚	10.0	6.4	3.8	180		L-12-j-5	鑄型
55	鉄脚	7.2	5.5	3.9	118		L-12-j-8	鑄型

番号	遺物種類	長さ	幅	厚さ	重さ	他の測値	備	考	分類
56	獣脚	2.9	3.5	1.8	15		L-12-n-2		鋳型
57	獣脚	4.2	4.9	2.0	30		L-12-n-6		鋳型
58	獣脚	3.5	3.5	2.2	21		L-12-n-5		鋳型
59	獣脚	5.4	3.1	2.5	41		L-12-n-5		鋳型
60	獣脚	4.2	3.1	1.5	31		M-12-b-2		鋳型
61	獣脚	7.0	3.1	2.3	50		L-12-n-5		鋳型
62	獣脚	4.1	2.7	2.0	34		M-12-b-2		鋳型
63	獣脚	4.4	3.3	2.7	38		M-12-b-2		鋳型
64	獣脚	7.5	2.3	2.2	47		L-12-j-8		鋳型
65	獣脚	5.2	3.3	2.0	35		M-12-b-2		鋳型
66	獣脚	4.0	2.8	1.9	34		L-12-n-8		鋳型
67	仏具	4.6	3.1	1.9	40		M-12-b-2		鋳型
68	獣脚	2.6	4.1	1.8	16		L-12-n-8		鋳型
69	容器				285	口径26.1器高10.5	M-12-b-4		鋳型
70	容器	8.0	7.7	3.6	215		L-12-j-6		鋳型
71	鉄塊系遺物	10.1	2.0	1.2	44		L-12-n-1		塊1
72	鉄塊系遺物	2.6	8.7	1.6	56.2		分析資料No34		塊1
73	容器				360	口径50.0器高9.2	L-12-n-8		鋳型
74	三叉状土製品	7.7		5.7	138		No110		土器
75	三叉状土製品	5.8		2.5	60		L-12-n-2		土器
76	三叉状土製品	6.1		3.2	40		L-12-n-8		土器
77	三叉状土製品	4.2		2.6	26		L-12-j-5		土器

張、そして、瀬戸の平碗などはや
や新しい時期の様相と考えられる。

本溝跡は2区中央から始まり、
本区北側の第4区に伸びるがその
部分から出土した遺物に付いても
同じ第22号溝であることから本区
に掲載する。

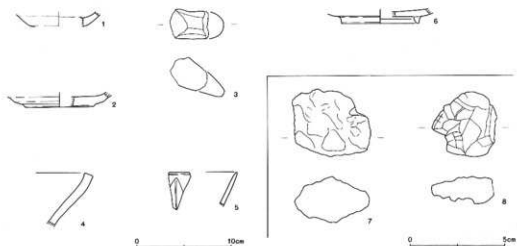
銭は78~81を検出し、78は皇宋
通寶(1039年)、79・80は聖宋元寶
(1101年)、81は熙寧元寶(1068年)
であり、いずれも北宋銭である。



第194図 第22号溝跡出土遺物(8)

第2区溝跡出土遺物観察表 (第195図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他	産地
1	青磁碗				I	A	青緑色	5%	SD 2 碗11~4	中国・龍泉
2	灰釉碗		1.6	7.0	I	A	暗灰色	10%	SD 2 覆土	志野
4	片口鉢				DH	A	茶褐色	5%	SD 2 P-10	常滑
5	青磁碗		3.6			A	淡緑色	5%	SD 2 P-11 碗15b	中国・龍泉
6	長石釉皿		1.5	8.0	I	A	黄白色	40%	SD 2 覆土	志野



第195図 第2区溝跡出土遺物

第2区溝跡出土土鈔遺物観察表 (第195図)

番号	遺物種類	長さ	幅	厚さ	重さ	他の測値	備	考	分類
3	三叉状土製品	4.0		2.9	32				土器
8	鉄塊系遺物	3.3	3.3	1.4	20				塊2
7	鉄塊系遺物	3.5	4.0	2.4	60				塊1

第17表 第2区溝跡一覧表

(単位 m)

新番号	旧番号	位	置	長さ	幅	深さ	主軸方向	時期
SD-07	SD-05	P-11	Q-11,12	33.20	1.80	0.40	N-25°-W	中世
08	06	R-12		5.60	0.60	0.18	N-60°-E	中世
09	07	Q-11,12	R-11	54.00	1.00	0.53	N-10°-W	近世
10	08	N-9	O, P, Q-10	45.60	1.60	0.14	N-15°-W	中世
11	09	Q-10,11		11.30	0.70	0.17	N-80°-E	中世
12	10	N, O-9	O, P, Q-10	23.70	0.80	0.16	N-15°-W	中世
13	11	Q-10		14.10	0.80	0.04	N-65°-E	中世
14	12	O-10,11	P-10,11	17.70	0.50	0.22	N-20°-W	中世
15	13	N-11		6.40	0.80	0.38	N-50°-E	中世
16	14	O-10		4.00	0.40	0.21	N-60°-E	中世
17	15	Q-11,12	R-11	17.30	1.50	0.38	N-55°-E	中世
18	18	O-11		7.20	0.90	0.22	N-65°-E	中世
19	19	P-12		2.10	0.50	0.04	N-52°-W	
20	20	P-11		9.20	0.70	0.07	N-35°-W	中世
21	21	O-12	P-11	20.00	0.70	0.13	N-65°-E	中世
22	37	N-12	O-11,12	35.10	2.00	0.36	N-3°-E	中世
23	39	O-11		3.00	0.40	1.20	N-50°-E	
24	56	N-12		6.80	1.30	0.31	N-90°-E	
25	57	N-12		3.60	0.70	0.24	N-85°-E	

(5) 井戸跡

本区から検出した井戸跡は第5～9号の5基である。このうち、第6・7号は大型であり、掘り込みの深さは4m前後である。第5・9号は小規模であった。

第5号井戸跡（第200図）

R-11区に位置し、東西に走る第13号溝跡と重複する。南側には第9号住居跡、東側には第10・12号住居跡が存在する。平面形態は円形をしており、断面は僅かに径を狭めながら底部に到達する。規模は長軸1.74m、短軸1.52m、深さ1.82mである。比較的規模の小さな井戸跡と考えられる。

出土遺物は、ほとんどなく、土師器甕の胴部破片・須恵器甕の胴部破片が僅かに検出された。

第6号井戸跡（第196～198図）

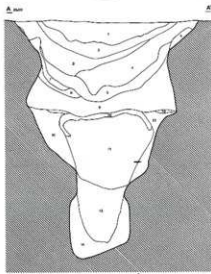
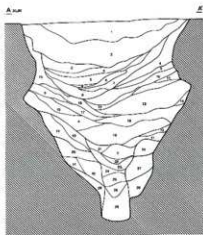
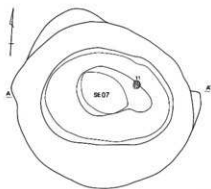
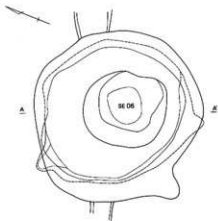
R-11区に位置し、南北に走る第13号溝跡を壊して造られる。第5号井戸跡の西側に近接し、更に、西側には第7号井戸跡が存在する。平面形態は円形をしており、断面は上部が擂鉢状をし、中位から径を狭め細く掘られているが、中位で地山が崩落しているため不明である。規模は長軸3.86m、短軸3.70m、深さ4.20mである。大規模な井戸跡であった。覆土は29層と細かく分層したが最下層は青灰色粘土層に達している。井戸跡中段のあたりには、井桁状に杵木を支えたと考えられる横方向の掘り込みが残る。このような掘り方は第4号井戸跡と共通する。

出土遺物は、上層からの出土遺物が多く常滑の甕、瀬戸系の鉢・壺、在地の鉢・甕を出土した。1～3は常滑系の甕である。いずれも、覆土上層で検出されているが、口縁部の形態に差がある。1は口縁部の破片である。口唇部は外に大きく開き上下に突出する。2は肩部から口縁部にかけての破片である。口唇部は外に大きく開き上に突出し下方は平坦である。3は第7・9号井戸跡と第93号土壇出土の破片と接合関係をもつ。外面口縁部から肩部および胴部に渡って自然軸が付着する。口唇部は上下に突出する。4は在地の鉢、5は在地の北武蔵型の甕である。器形はやや歪みがあり正位の状態で口縁部が斜めになる。底部は上げ底で、体部に張りをもって立ち上がる。最大径は胴部の上半に位置し肩部をもつ。口縁部は短くやや外方に立ち上がり、内湾気味に器形を戻す。口唇部は緩やかながらも断面三角状に上方を向いて立ち上がる。整形は口縁部ヨコナデ、胴部におよぶ。胴部下半は下方向のヘラケズリを施し、内面は黒漆が塗られている。7・8は瀬戸系の搬入陶器である。10は獣脚鋳型片である。

第7号井戸跡（第196～199図）

R・S-11区に位置し、第6号井戸跡の西側にあたる。第117号土壇に近接する。平面形態は円形をしており、断面は上部が擂鉢状をし、中位から径を狭め細く掘られているが、中位で地山が崩落している。第6号井戸跡と同規模・同形態と考えられる。実際の調査規模は長軸3.88m、短軸3.62m、深さ3.58mである。大規模な井戸跡であった。覆土は14層からなり、第10層の直上には酸化筋層が見られる。

出土遺物は、1は青磁碗である。2は瀬戸系のおろし皿である。3は瀬戸系の平碗である。4～7は在地の片口鉢である。8は常滑系の高台付擂鉢。9・10は常滑系の甕。12は白色滓である。11は曲物で直径18.0cm、厚さ8mmである。



SE-06

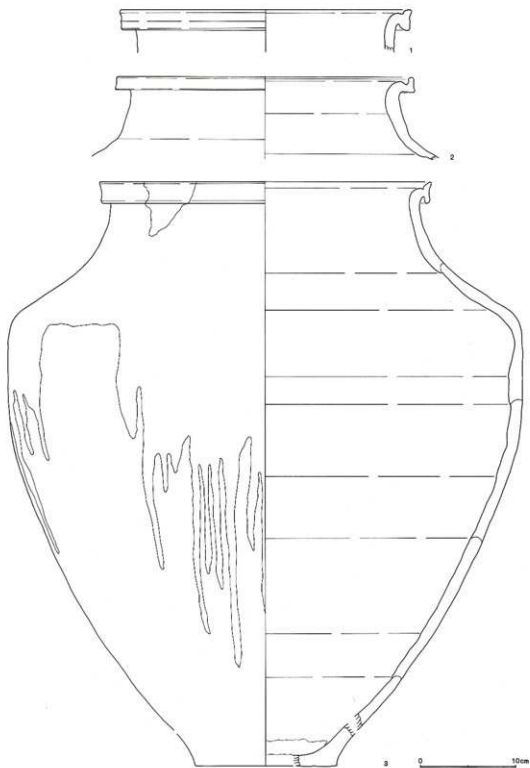
- 1 暗褐色土 礫、小砂利、黄褐色の花岩ブロックを多量含む。
- 2 暗褐色土 礫が顕著。1よりも粘性強い。
- 3 暗褐色土 1, 2よりも粘性強い。ローム粒子含む。ソフト。
- 4 褐色砂礫 砂質で小砂利混入。3よりも粘性弱く、ソフト。
- 5 灰褐色粘土 褐色の砂と灰褐色粘土が互層を形成。ソフト。
- 6 灰褐色土 ソフト。
- 7 灰褐色粘土 5に近似するが、色調暗い。
- 8 灰褐色粘土 褐色の酸化した砂と灰褐色粘土が互層を形成。常硬腐植層が多量に混入。
- 9 黄褐色砂礫 4に近似。黄褐色のロームブロックを混入。
- 10 黄褐色砂礫 9に近似。ロームブロックの混入が部分的。
- 11 黄褐色砂礫 灰褐色土と暗褐色砂質土の割合層。
- 12 灰褐色粘土 下部に灰褐色土が混入。
- 13 灰褐色砂礫 12に近似。礫を混入。
- 14 灰褐色砂礫 13に近似。ロームブロックの混入が顕著。
- 15 褐色土 ローム質で、下部は粘土質。
- 16 灰褐色砂礫 12・13よりも砂の混入少なく、粘土が顕著。
- 17 灰褐色粘土 16に近似するが、9が層に入らる。
- 18 灰褐色砂質粘土 上部はローム質で明るい、下部は黒味帯びる。
- 19 暗褐色粘土 黒味の強い粘土層で、部分的に砂ブロック混入。
- 20 黄褐色砂礫 18に近似。小砂利の混入が顕著(崩壊した地山)。
- 21 灰褐色粘土 9から混入したと思われる砂、小砂利を混入。
- 22 青灰色粘土 ロームブロックを含む。

- 23 青灰色粘土 ソフト。
- 24 青灰色粘土 砂・植物繊維を含み、ソフト。
- 25 青灰色粘土 小礫を混入。
- 26 青灰色粘土 23に近似し、黒味が増す。
- 27 青褐色砂礫 青灰色粘土層を混入。砂の混入も顕著。
- 28 青褐色砂礫 砂が顕著でソフト。
- 29 青灰色粘土 ソフト。

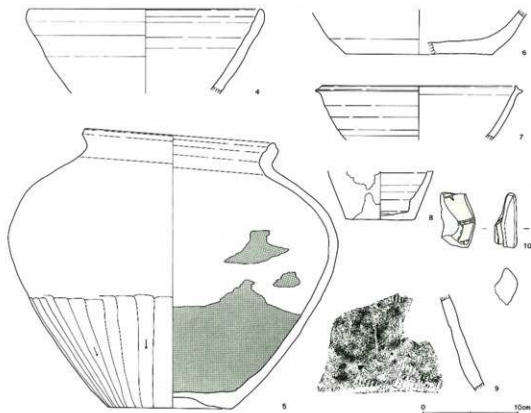
SE-07

- 1 黒褐色土 ローム・焼土粒子、礫を多量含む。礫は小粒主体。
- 2 黒褐色土 大粒の礫を1よりも多量含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを多量、礫を少量含む。
- 4 黒褐色土 礫を多量、小粒のものが主体。
- 5 暗茶褐色土 粘性が強い、黒色が少々強い。
- 6 暗茶褐色土 粘質ロームを主体。
- 7 暗茶褐色土 砂と礫のロームの割合層。
- 8 黒褐色土 5に類似。黒色強く、ロームブロックを多く含む。
- 9 暗茶褐色土 砂質土を主体。ローム・焼土粒子、小礫を含む。
- 10 明灰色土 粘土層、礫を含む。上部部は酸化している。
- 11 青灰色土 やや暗い色調。青灰色の粘土層で砂礫を含む。
- 12 暗茶褐色土 砂礫を主体とし、部分的に酸化している。
- 13 青灰色土 青灰色の粘土層を主体。砂礫を含む。
- 14 暗灰色土 粘土層で砂礫を含む。

第196図 第6・7号井戸跡



第197图 第6号井戸跡出土遺物(1)



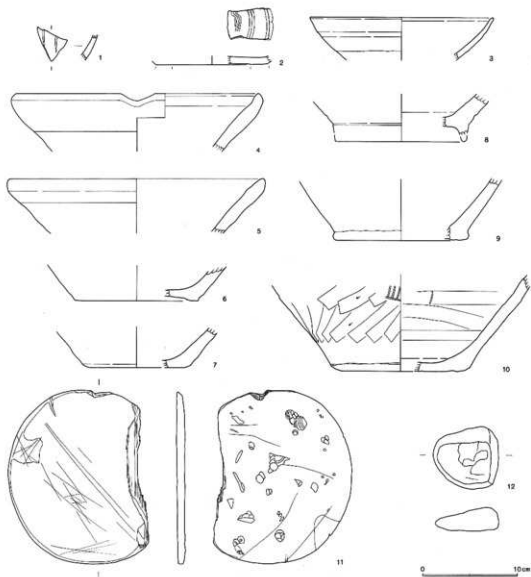
第198図 第6号井戸跡出土遺物(2)

第6号井戸跡出土遺物観察表 (第197・198図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他	産地
1	甕	(30.6)	4.4		BDHI	A	茶褐色	10%	上層	常滑
2	甕	(31.0)	8.6		BDHI	A	茶褐色	10%	覆土上層	常滑
3	甕	35.0	61.5	15.0	BDI	B	茶褐色	20%	SE7 SE9 SK93	常滑
4	片口鉢	14.5	8.9		C	B	黒灰色	30%	上層	在地
5	甕	19.5	28.7	13.0	CDH	C	灰褐色	80%	覆土上層	在地
6	片口鉢		4.7	(17.5)	CI	B	灰色	25%	上層 SD30No43	常滑
7	灰釉鉢	10.4	5.7		I	A	褐緑色	10%	覆土上層	瀬戸
8	瓶子		5.1	7.3	CI	A	灰色	50%	上層	瀬戸
9	甕				BI	A	白灰色	1%	上層	常滑

第6号井戸跡出土土造遺物観察表 (第197・198図)

番号	遺物種類	長さ	幅	厚さ	重さ	他の測値	備	考	分類
10	獸脚	5.6	3.5	2.3	40		上層		銅型



第199図 第7号井戸跡出土遺物

第7号井戸跡出土遺物観察表 (第199図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成色調	残存	出土位置・その他	産地
1	青磁碗				B I	A 緑色	5%	覆土 椀田 2	中国・龍泉
2	おろし皿	0.9		11.8	I	A 灰色	5%		
3	灰軸平碗	19.4		4.5	I	A 灰色	15%	覆土	瀬戸 瀬戸 在地 在地 在地 在地 常滑 常滑 常滑
4	片口鉢	15.9	6.2		C	B 灰色	10%		
5	片口鉢	17.0	5.7		C	A 黒灰色	5%		
6	摺鉢		3.7	(13.0)	I	C 白色	25%		
7	摺鉢		3.7	(9.4)	C	B 黄褐色	25%		
8	片口鉢		4.3	14.0		B 茶褐色	5%		
9	片口鉢			14.0	H	B 灰色	20%		
10	片口鉢		10.2	14.8	D I	B 灰褐色	25%		

第7号井戸跡出土鑄造遺物観察表 (第199図)

番号	遺物種類	長さ	幅	厚さ	重さ	他の測値	備考	分類
12	石灰石	6.5	7.0	2.4	187			石

第8号井戸跡 (第200~201図)

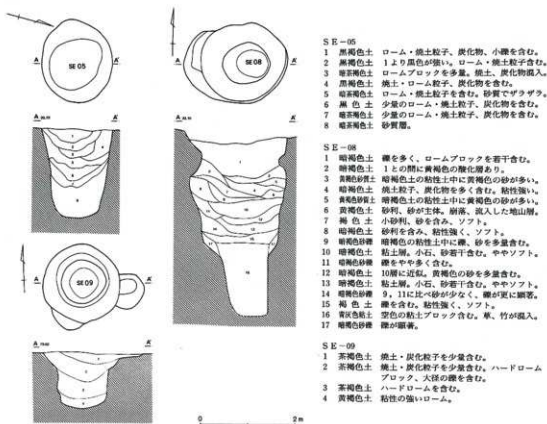
P-11区に位置し、第7号溝跡を壊して造られている。平面形態は円形をしており、断面は上部がやや広がり、中位は壁が崩落したためオーバーハングしている。下部は円筒状に真直ぐ掘られている。規模は長軸2.20m、短軸1.64m、深さ3.60mである。覆土は17層からなり、第16層は青灰色粘性土層である。

出土遺物は、1・2である。いずれも常滑系の甕である。1は口縁部が折りかえり横ナブを施す。胴部外面は下方向のヘラケズリ。

第9号井戸跡 (第200~201図)

O-11・12区に位置し、第22号溝跡の西側にあたる。平面形態は円形をしており、断面は上部がやや広がり、下部は円筒状に真直ぐ掘られている。規模は長軸1.84m、短軸1.60m、深さ1.18mである。覆土は4層からなる。

出土遺物は、3~6である。3は在地系の片口鉢。4は常滑系の高台付播鉢である。5・6は内耳鍋である。

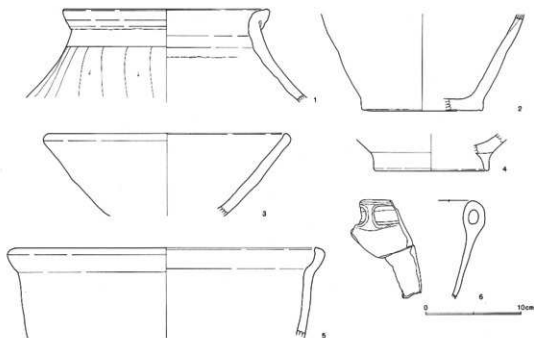


- SE-05
- 1 黒褐色土 ローム・焼土粒子、炭化物、小礫を含む。
 - 2 黒褐色土 1より黒色が強い。ローム・焼土粒子含む。
 - 3 暗褐色土 ロームブロックを多量。焼土、炭化物混入。
 - 4 黒褐色土 焼土・ローム粒子、炭化物を含む。
 - 5 暗褐色土 ローム・焼土粒子を含む。砂質でザラザラ。
 - 6 黒土 少量のローム・焼土粒子、炭化物を含む。
 - 7 暗褐色土 少量のローム・焼土粒子、炭化物を含む。
 - 8 暗褐色土 砂質層。

- SE-08
- 1 暗褐色土 礫を多く、ロームブロックを若干含む。
 - 2 暗褐色土 1との間に黄褐色の酸化層あり。
 - 3 黄褐色土 暗褐色土の粘性土中に黄褐色の砂が多い。
 - 4 暗褐色土 焼土粒子、炭化物を多く含む。粘性強い。
 - 5 黄褐色土 暗褐色土の粘性土中に黄褐色の砂が多い。
 - 6 黄褐色土 砂利、砂が主体。崩落、流入した地山層。
 - 7 褐色土 小砂利、砂を含み、ソフト。
 - 8 暗褐色土 砂利を含み、粘性強く、ソフト。
 - 9 暗褐色土 暗褐色の粘性土中に礫、砂を多量含む。
 - 10 暗褐色土 粘土層。小石、砂若干含む。ややソフト。
 - 11 暗褐色土 礫をやや多く含む。
 - 12 暗褐色土 10層に近似。黄褐色の砂を多量含む。
 - 13 暗褐色土 粘土層。小石、砂若干含む。ややソフト。
 - 14 暗褐色土 9、11に比べ砂が少なく、礫が更に顕著。
 - 15 褐色土 礫を含む。粘性強く、ソフト。
 - 16 黄褐色土 紫色の粘土ブロック含む。草、竹が混入。
 - 17 暗褐色土 礫が顕著。

- SE-09
- 1 茶褐色土 焼土・炭化粒子を少量含む。
 - 2 茶褐色土 焼土・炭化粒子を少量含む。ハードロームブロック、大径の礫を含む。
 - 3 茶褐色土 ハードロームを含む。
 - 4 黄褐色土 粘性の強いローム。

第200図 第5・8・9号井戸跡



第201図 第8・9号井戸跡出土遺物

第8号井戸跡出土遺物観察表 (第201図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	構成	色調	残存	出土位置・その他	産地
1	甕	21.7	9.7		CDI	A	灰褐色	30%	O-13	常滑
2	甕		10.1	12.8	DHI	B	灰色	20%	SE 3	常滑

第9号井戸跡出土遺物観察表 (第201図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	構成	色調	残存	出土位置・その他	産地
3	片口鉢	15.0	8.4		C	B	淡褐色	20%	SD22N-12-1胎土分析No7	在地
4	片口鉢		3.9	10.8	DH	B	灰色	10%	覆土	常滑
5	内耳鍋	32.0	9.5		ACDE	B	茶褐色	10%	胎土分析No14	在地
6	内耳鍋		10.3		CDEGI	B	茶褐色	5%		在地

第18表 第2区井戸跡一覧表

(単位 m)

新番号	旧番号	位置	形態	長軸	短軸	深さ	主軸方向	時期
SE-05	SE-04	R-11	円形	1.74	1.52	1.82	N-75°-E	中世
06	05	R-11	円形	3.86	3.70	4.20	N-32°-E	中世
07	06	R, S-10	円形	3.88	3.62	3.58	N-21°-W	中世
08	07	P-11	円形	2.20	1.64	(3.60)		中世
09	11	O-11, 12	円形	1.84	1.60	1.18	N-11°-E	中世

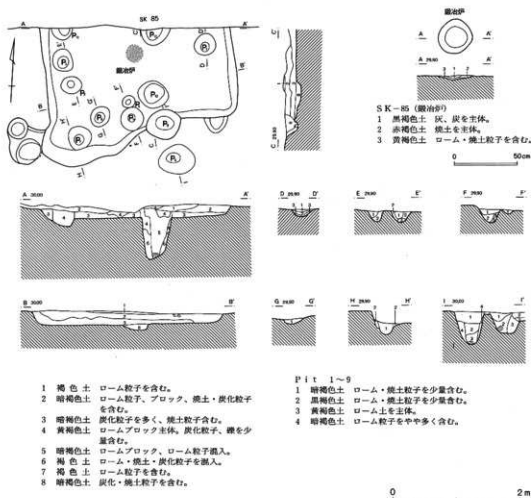
(6) 土 壌

本区からは第85～168号土壌を検出した。このうち、第85・117・118号土壌は竪穴状遺構であり、また、86～168号土壌の多くは鋳造作業の付属的な施設と判断できるものが多い。

第85号土壌 (第202図)

鍛冶炉を伴う竪穴状遺構である。北壁は調査区域外であり西壁および、南壁から東壁を検出した。形態は方形と推定される。規模は東西3.03m、南北1.43m±、深さ20cmである。床面は平坦で中央部に焼土を伴う円形の鍛冶炉を確認し、大きさは径26cm、掘り込みの深さは浅く9cmである。また、床面からは鍛造剥片を検出した。遺構内には柱穴を多く検出したが本遺構に伴う柱穴は不明である。第2鋳造遺構群内の付属工房施設として考えられる。

出土物は第214図の1・2を出土し、常滑の甕口縁部破片と手づくね土器である。



第202図 第85号土壌・鍛冶炉



第203図 土壌群全体図(1)

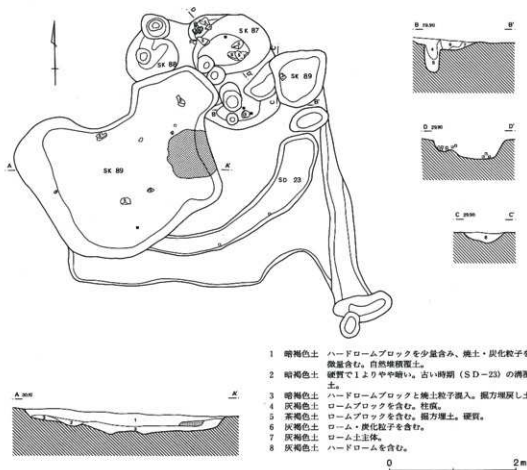
第86・87・88・89号土壌 (第204図)

大型の第88号土壌と北東に第86・87・88号土壌を検出した。南側には土壌に伴うと考えられる第23号溝跡を確認した。いずれも、鑄造関連土壌と考えられる。

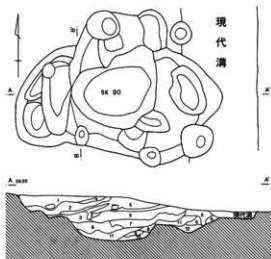
第86号土壌は中央部やや深い掘鉢状をした円形をし、径0.88cm、深さ16cm程である。覆土はハードロームを含む灰褐色土である。第87号土壌は中心部に深い円形をした掘り込みをもち周囲にテラスをもつ。ピットは新しい遺構である。規模は南北1.80m、東西1.20m、深さはテラスで18cm、中心部の深いところで28cmである。テラス部分からはこぼし大の石をまとめて検出した。また、容器鑄型も検出した。第88号土壌は円形をし径0.82mである。

第89号土壌は北側に凹みをもつ不整形である。規模は南北2.20m、東西3.32m、深さ36cmである。本遺構は地山のロームを堅穴状に荒掘りされ、凹凸をもつ底面にハードロームブロックと焼土粒子を含む暗褐色の第3層を埋め戻し整地している。平坦でやや中央部が凹むこの面が作業面と考えられる。東壁際には廃滓の堆積層を検出した。床面上には石や炉壁片、鉄塊を検出した。

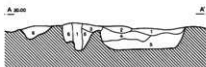
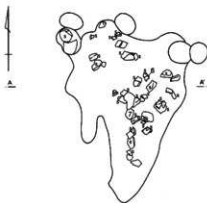
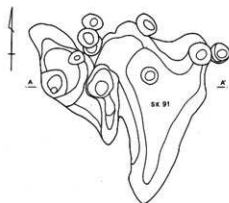
出土遺物は、全て分類し計量した。鉄塊9g、炉壁2348g、銅滓29g、鉄滓2484g、木炭8g、白色滓1g、石198g、鑄型79g、土器95g、羽口127gであった。鑄型は全て不明鑄型である。



第204図 第86～89号土壌



- | | | |
|----|------|---------------------------|
| 1 | 茶褐色土 | 炭化粒子含み、やや軟らかく、自然堆積と考えられる。 |
| 2 | 茶褐色土 | ハードロームを含む。 |
| 3 | 茶褐色土 | ハードロームを含む。 |
| 4 | 茶褐色土 | 焼土粒子、ハードロームブロックを含む。 |
| 5 | 茶褐色土 | 崩れたハードロームブロックを含む。 |
| 6 | 茶褐色土 | ハードロームやや多い。 |
| 7 | 暗褐色土 | ハードロームを含む。 |
| 8 | 暗褐色土 | ハードロームブロックを露降り状に含む。 |
| 9 | 茶褐色土 | ややシルト味あり。しまり欠く。 |
| 10 | 暗褐色土 | ハードロームブロックを少量含む。 |
| 11 | 茶褐色土 | ハードローム少量含む。 |
| 12 | 茶褐色土 | ハードローム少量含む。 |



- | | | |
|---|-------|-----------------------------|
| 1 | 茶褐色土 | 炭化物、焼土粒子を少量、崩れたロームを露降り状に少量。 |
| 2 | 茶褐色土 | ハードロームを含む。 |
| 3 | 茶褐色土 | 炭化物、焼土粒子を含む。 |
| 4 | 茶褐色土 | 炭化物、焼土粒子を含み、ハードロームを多量混在。 |
| 5 | 暗茶褐色土 | ハードローム主体、茶褐色土を少量含む。 |
| 6 | 茶褐色土 | ハードローム含む。 |

0 2m

第205図 第90・91号土壌

第90号土壌 (第205図)

本土壌は粘土採掘を目的とした幾重にも掘り込まれた土壌の集合とみられる。形態は全体に不整形をしているが個々の掘り込みは概ね楕円形と考えられる。規模は全長で南北2.18m、東西3.25m、深さは最大66cmである。断面観察によると粘土質のハードロームを混在させていることから本土壌は粘土採掘土壌と考えられる。

第91号土壌 (第205図)

本土壌は第89号土壌の北側に位置する。形態は逆三角形をした土壌本体と西側にはピットを検出した。ピットはいずれも新しいと考えられる。規模は南北2.72m、東西1.78m、深さ34cmである。本土壌は覆土中から炉壁片とこぶし大の石を多く検出した。覆土は炭化物・焼土粒子を含む茶褐色土が堆積していた。出土遺物は三叉状土製品や炉壁を検出した。鋳造関連土壌と考えられる。

第92号土壌 (第206図)

本土壌の西側を南北に現代の溝が走る。北側には第90号土壌が存在する。形態は方形で北西と南東に楕円形の土壌と重複する。規模は南北2.58m、東西2.38m、深さは16cmである。土壌内からはこぶし大の石を多く出土し、これらの石に混じって第214図8の高台の付く常滑系播鉢と9のスタンブ状石製品、10の在産産鉢を検出した。鋳造関連土壌と考えられる。

第93号土壌 (第206図)

本土壌は、第92号土壌の東側に位置する。形態は小規模の楕円形の土壌が重複し東西方向に連続し細長い。全体の規模は南北0.68m、東西2.38m、深さ28cmである。鋳造関連土壌と考えられる。

第94号土壌 (第208図)

第2鋳造構群の東側に位置する。立地は台地肩部のわずかに東側に傾斜し始める。しかし、鋳造関連土壌はいずれも緩斜面東側を南北方向の地形に沿って走る第22号溝跡を境として概ね区切りとする。溝の東側の斜面部分には鋳造関連土壌は見られない。

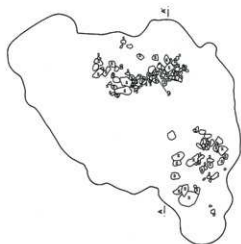
その中に在って、本土壌は第22号溝跡と近接する。形態は不整形をしている。規模は南北1.70m、東西2.34m、深さ4cmと掘り込みは浅い。底面は地山のローム土を利用し西側には石を伴うピットを検出した。鋳造関連土壌と考えられる。土壌北側には方形の小規模な土壌と重複する。

第95号土壌 (第208図)

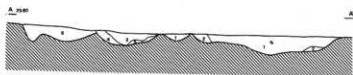
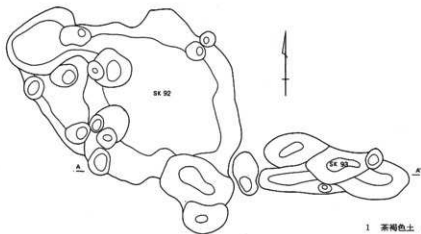
第94号土壌の西側に位置し、周辺には第96・97・98・99号土壌が存在する。本土壌の形態は隅丸長方形をし、底面は凹凸が見られ壁はなだらかに立ち上がる。遺構内には新しい時期のピットが多く重複する。規模は南北1.73m、東西2.05m、深さ26cmである。断面観察によるとハードロームを含む灰・黒褐色土が縞状に堆積している。鋳造関連土壌と考えられるが、特に粘土採掘を目的とした土壌の性格が強い。

第96号土壌 (第208図)

第95号土壌の西側に位置する。本土壌は何度かにわたって掘り込まれた土壌と考えられる。形態は東西に細長い不整形である。規模は1.66m、東西2.96m、深さ43cmである。断面観察によればハードロームを含む黄・茶褐色土が縞状に堆積している。鋳造関連土壌と考えられるが、特に粘土採掘を目的とした土壌の性格が強い。



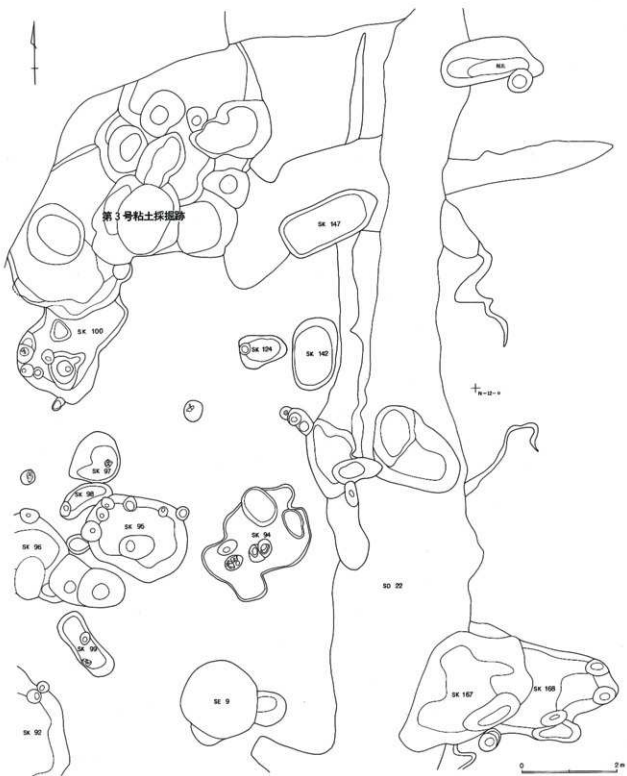
0 1 m



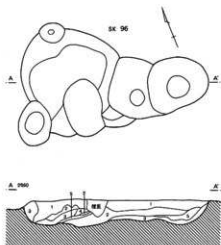
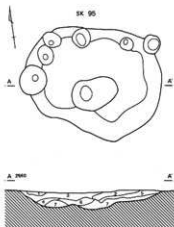
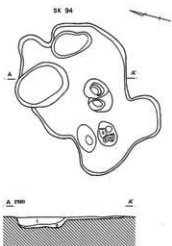
- 1 茶褐色土 炭土粒子、鉄滓を含む。硬くしまる。
- 2 茶褐色土 1とハードロームを混入。
- 3 茶褐色土 ハードローム、炭土粒子を含む。
- 4 茶褐色土 3よりハードローム多い。
- 5 茶褐色土 ハードロームを主体。炭土粒子を少量含む。
3、4、5は硬くしまる。
- 6 灰褐色土 大径の礫と鉄滓を含む。しまり欠く。現代溝。

0 2 m

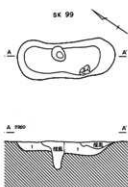
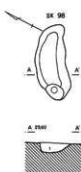
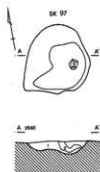
第206図 第92・93号土壌



第207图 土壤群全体图(2)



- SK-94
- 1 茶褐色土 焼土・ローム粒子を含む。硬くしまる。
 - 2 茶褐色土 砂質ロームブロックを含む。硬くしまる。
- SK-95
- 1 灰褐色土 ハードロームの大径ブロックを多量含む。硬くしまる。
 - 2 灰褐色土 ハードローム・焼土粒子を含む。
 - 3 黒褐色土 ハードローム・焼土粒子を少量含む。
 - 4 黒褐色土 ハードローム・焼土粒子を少量含む。
 - 5 黒褐色土 硬くしまる。
 - 6 茶褐色土 ハードローム、茶褐色混合土。
 - 7 茶褐色土 砂質ロームを含む。
- SK-96
- 1 茶褐色土 ハードロームを少量含む。
 - 2 黄茶褐色土 ハードロームを主体。茶褐色土を少量含む。
 - 3 黄茶褐色土 ハードロームやや少ない。2より茶褐色土さらに少ない。
 - 4 茶褐色土 ローム粒子含む。
 - 5 茶褐色土 ハードローム粒子を含む。



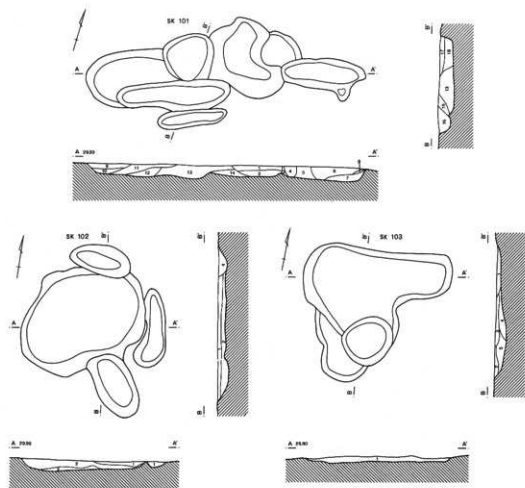
- SK-97
- 1 灰褐色土 ハードローム、焼土粒子を含む。
 - 2 灰褐色土 鉄屑を多量含む。
- SK-98
- 1 茶褐色土 ハードロームを混入。
- SK-99
- 1 黒褐色土 焼土粒子を含む。

0 2m

第208図 第94~99号土壌



第209图 土壤群全体图(3)



SK-101

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。人為的埋土。
- 2 黒灰色土 灰層。
- 3 黄褐色土 ローム土主体。砂質。
- 4 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 5 褐色土 ロームブロックを含む。人為的埋土。しまり非常に強い。
- 6 暗褐色土 焼土・炭化粒子を含む、しまり弱い。
- 7 褐色土 5に類似。
- 8 黄褐色土 ローム層。
- 9 暗褐色土 砂質ロームやや多い。焼土・炭化粒子を含む、しまりやや強い。
- 10 暗褐色土 ローム土を含む、しまり強い。
- 11 褐色土 ローム粒子を少量含む、しまり強い。
- 12 暗褐色土 ローム土を含む。
- 13 暗褐色土 ローム粒子を少量含む、しまり強い。
- 14 暗褐色土 12に類似。
- 15 暗褐色土 12に類似。
- 16 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 17 褐色土 ローム土を含む。
- 18 暗褐色土 ロームブロックを含む。

SK-102

- 1 暗褐色土 焼土粒子を多く、ローム粒子を含む。しまり強く、構造関係の作業面と思われる。
- 2 暗褐色土 ローム・焼土粒子を含む、しまり強い。
- 3 黄褐色土 ローム粒子を主体。暗褐色土を少量含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒子を少量含む、しまり弱い。

SK-103

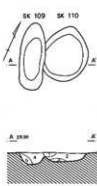
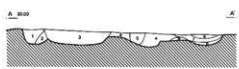
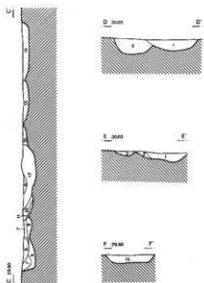
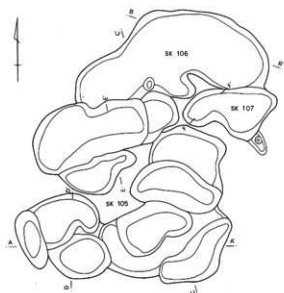
- 1 覆瓦
- 2 暗褐色土 ローム・焼土・炭化粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 5 黒褐色土 ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。しまり強い。

SK-104 (人為的埋土)

- 1 暗褐色土 ローム・焼土粒子を少量含む、しまり強い。
- 2 褐色土 ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子を含む。



第210図 第101~104号土壌



SK-105・106・107

- 1 暗褐色土 塵土・炭化粒子、鉄屑含む。砂質。砂跡少。
- 2 黄褐色土 塵やや多く含む。砂質。
- 3 暗褐色土 ローム粒子やや多く含む。しまり強い。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 5 黒褐色土 塵土・炭化粒子少量含む。
- 6 暗褐色土 1に類似。砂質。
- 7 黄褐色土 ローム土を主体褐色土少量。
- 8 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 9 褐色土 ロームブロックを含む。
- 10 黄褐色土 ローム土を主体。
- 11 褐色土 ロームブロックを含む。
- 12 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 13 褐色土 ロームブロックを含む。
- 14 黒褐色土 ロームブロックを含む。
- 15 暗褐色土 ローム粒子を含む。

SK-108 (2~4は人為的埋土)

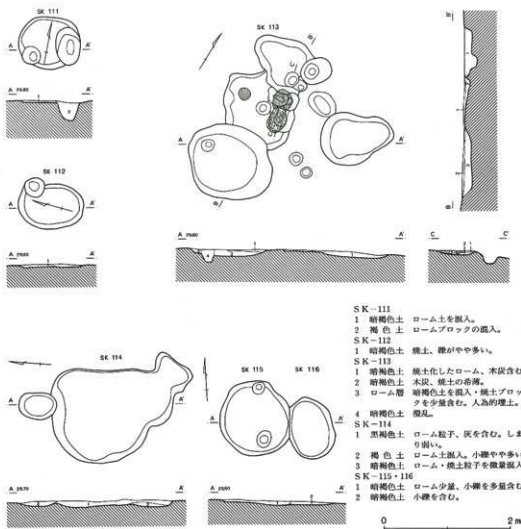
- 1 褐色土 粘質土。
- 2 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 4 黄褐色土 ローム土を主体。褐色土を少量混入。

SK-109・110 (人為的埋土)

- 1 褐色土 微細なローム粒子を多量混入。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 3 黄褐色土 砂質。
- 4 褐色土 ロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロックを含む。



第211図 第105~110号土壌



第212図 第111～116号土壌

第97・98・99号土壌 (第208図)

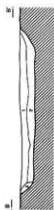
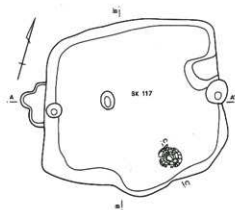
本土壌はいずれも鈔造関連土壌と考えられる。形態は小型の不整楕円形をしている。第97号はハードロームを含み鉄滓を多く出土した。第98号はハードロームを含む。第99号は焼土粒子を含む。

第100号土壌 (第207図)

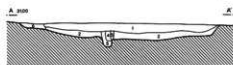
本土壌は第3号粘土採掘跡と重複関係にある新旧関係は不明である。形態は長方形をしていると考えられる。規模は南北2.41m、東西1.78mである。鈔造関連土壌と考えられる。

第101～116号土壌 (第210～212図)

本土壌はいずれも鈔造関連土壌と考えられるが性格や機能は不明である。台地の平坦な東側緩斜面肩部を地形に沿って南北方向に円形や楕円形、さらには不整形な土壌が重なり合って検出された。



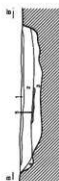
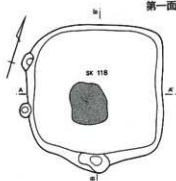
0 1m



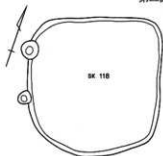
SK-117

- 1 黒褐色土 焼土・ローム粒子、小砂利を混在。しまりやや弱い。
- 2 黒褐色土 焼土・炭化・ローム粒子を含み、しまり、粘性1よりも強い。
- 3 黒色土 ローム粒子を混在。しまり弱い。
- 4 暗褐色土 ローム粒子を含み、しまり弱い。
- 5 褐色土 焼土・ローム粒子を含み、しまりややもつ。
- 6 黄褐色土 ローム土を主体。
- 7 褐色土 きめ細かく、焼土、炭化粒子を若干含む。
- 8 暗褐色土 焼土、炭化粒子を含み、しまり弱い。
- 9 黄褐色土 焼土、ローム土を混在。粘性、しまりややもつ。

第一面

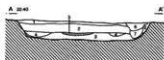


第二面



SK-118

- 1 黒褐色土 ローム・焼土粒子を含み、しまりよい。
- 2 灰茶褐色土 ロームブロック、焼土粒子を含む。
- 3 灰茶褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土 崩壊によると思われる焼土を多量含む。
- 6 黒褐色土 ローム・焼土粒子、炭化物を少量含む。
- 7 暗黄褐色土 ローム粒子、ブロックを多量含む。



0 2m

第213図 第117・118号土壇

土壌は地山のローム面を浅く皿状に掘り込み、底面は平坦である。断面観察によると個々の堆積層は微妙に異なるが共通点も多い。特に、ロームブロック・ローム粒子を多く含むことである。また、粘質土や砂質ローム土を含むことなども注意される。これらの土壌群の南側には第1粘土探掘跡が存在し、本土壌群が粘土のこね場の遺構の可能性も考えられる。

第117号土壌 (第213図)

本土壌は第2区の南端に位置する。台地平坦部にあたり北東に第5・6・7号の井戸跡が存在する。土壌は地山のローム土を方形に掘り込む竪穴遺構である。規模は南北2.46m、東西2.86m、深さ24cmである。底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がっている。東壁のやや北寄りにはローム土を張り込んで造られたテラス状の段をもつ。おそらく、入り口施設として考えられる。また、土壌の中央を東西方向にビットを3基検出した。遺構に伴う可能性がある。

本土壌からの出土遺物は、南壁際に唐草文様の施された円形の鋳型を検出した。

第118号土壌 (第213図)

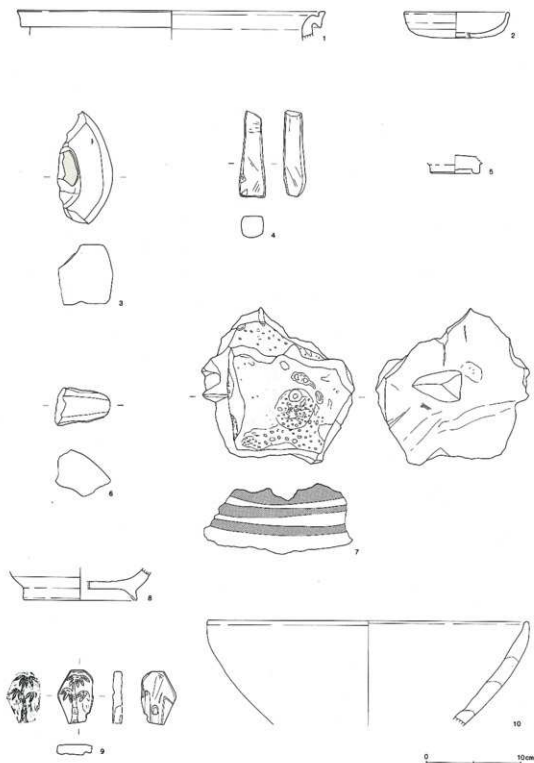
本土壌は第2区の中央やや南側に位置する。周辺にはビットを多く検出した。また、南側に第158号土壌、東側に第1号粘土探掘跡が存在するが鋳造遺構の広がりはなく第117・118号土壌周辺は居住用の空間とも考えられる。土壌は地山のローム土を方形に掘り込む竪穴遺構である。規模は南北2.13m、東西2.17m、深さ28cmである。底面は2面あると考えられる。第1面は掘り方埋土に第3層をもち整地されたほぼ平坦な面の中央に焼土を伴う径65cm程の炉を検出した。第2面(最終作業面)は更に第2層を埋め込み整地地面を造り替えたものと考えられる。壁は緩やかに立ち上がっている。

第2区土壌跡出土遺物観察表 (第214・215図)

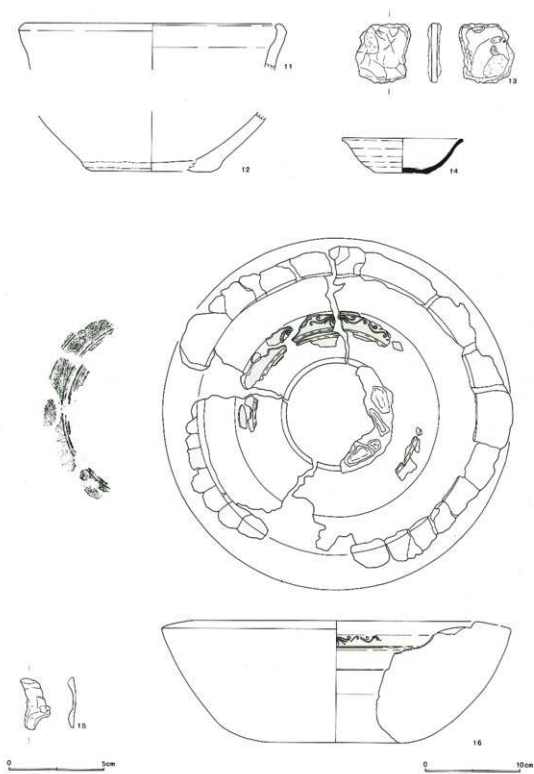
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成色調	残存	出土位置・その他	産地
1	甕	(32.4)	3.1		BDI	A 茶褐色	5%	SK85 覆土	常滑
2	てづくね		11.0	2.7	BCD	B 淡褐色	40%	SK85 覆土	在地
5	青磁碗		1.9	5.3	I	A 緑色	10%	一括 椀I5b?	中国・龍泉
8	片口鉢		3.5	10.8	CGH	B 灰色	20%	SK92 N0.2	常滑
10	片口鉢	33.6	11.0		AC	C 褐色	10%	SK92	在地
11	内耳鍋	27.0	4.8		C	B 褐色	5%	SK125	在地
12	片口鉢		5.7	(12.6)		A 灰褐色	15%	SK154	在地
14	須恵器坏	12.6	3.6	5.7	BCDF	A 灰白色	70%	SK166	南比企

第2区土壌跡出土鋳造遺物観察表 (第214・215図)

番号	遺物種類	長さ	幅	厚さ	重さ	他の側値	備	考	分類
3	容器	11.6	5.8	6.2	355		O-9-d-9		鋳型
4	磁石	9.0	2.8	2.2	72		O-9-d-4		石
6	三叉状土製品	5.6		4.0	74		SK91 No.5		土器
7	炉壁	15.6	15.8	6.9	1294		SK91 No.10		炉2
9	スタンプ状石製品	5.5	3.7	1.0	29		SK92 No.9		石
13	鉄塊系遺物	6.0	5.3	1.3	67		SK150		塊2
15	銅滓	2.6	1.3	0.3	5		SK129		銅1
16	仏具					外径34.3器高12.7	SK117		鋳型



第214图 第2区土坑出土遗物(1)



第215図 第2区土壇出土遺物(2)

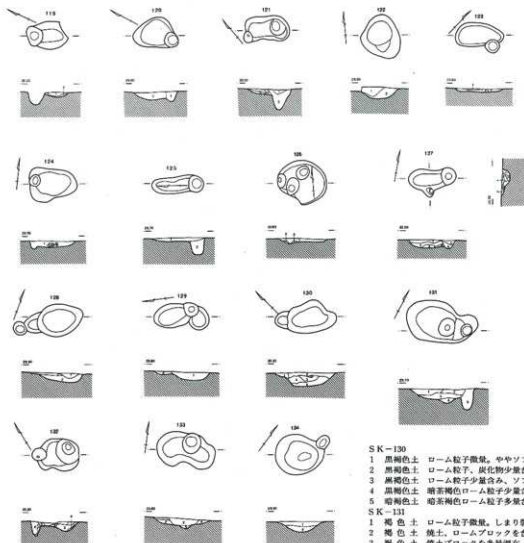


第117号土壇出土鑄型

第119～168号土壇（第216～219図）

本区から検出した第119～168号土壇は、粘土探掘跡を中心として幾重にも重複し連続して検出されたり、数基がまとまって検出されたり、或いは、単独で検出されたりと様々な状況である。しかし、いずれも、小規模で不整形の形態をした掘り込みの浅い土壇である点で共通した特徴をもつと言える。覆土は暗褐色土でローム粒子を少量含む。第131・141号土壇の底面には砂質土を検出した。

これら土壇の性格は特定するのが難しいが、このような土壇群が検出された場所は金井遺跡B区の中でも本地区だけである。しかも、北側には第2 鑄造遺構群が存在するものの、溶解作業をした遺構の検出は認められず、土壇覆土中からは鉄滓や炉壁・鑄型等の鑄造遺物の検出も極めて少ない。また、第117号土壇内からは唐草文様を施した円形の不明鑄型を出土した。これらの状況から、本区の中央から南側の土壇が多く展開して検出された場所は、粘土をこねたり、鑄型を製作するなど他には見られない作業空間としての位置づけが考えられる。



SK-119

- 1 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を多量含む。

SK-120

- 1 黒褐色土 柱状。
- 2 暗褐色土 ローム粒子微量、しまり強い。

SK-121

- 1 黒褐色土 ローム・焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を多量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒子を微量含む。
- 4 黒褐色土 焼土粒子を微量含む。
- 5 黒褐色土 ローム粒子を少量含む。

SK-122

- 1 黒褐色土 焼土・炭化・ローム粒子少量。
- 2 黄褐色土 ローム土主体。

SK-123

- 1 黒褐色土 鉄分粒子（酸化鉄）を含む。
- 2 黄褐色土 ローム層。

SK-124

- 1 暗褐色土 焼土粒子を含み、硬くしまる。

SK-125

- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム・焼土粒子を微量含む。

SK-126

- 1 黒褐色土 焼土・ローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土 軟質ロームのブロックを含む。

SK-127

- 1 暗褐色土 ローム・焼土粒子を微量含む。
- 2 暗褐色土 ローム・焼土粒子、炭化物含。
- 3 暗褐色土 砂質ロームを多量含む。
- 4 暗褐色土 2に近似。ローム粒子多い。
- 5 黒褐色土 しまり弱く、ヤフヤフ。
- 6 暗褐色土 ローム・焼土粒子、炭化物含。
- 7 暗褐色土 焼土を微量含み、しまりよい。

SK-128

- 1 暗褐色土 焼土・炭化粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム・焼土・炭化粒子含む。
- 3 暗褐色土 人為的埋土。しまり強い。

SK-129

- 1 暗褐色土 焼土・炭化・ローム粒子含む。
- 2 褐色土 ローム粒子を含む。

SK-130

- 1 黒褐色土 ローム粒子微量、ややソフト。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、炭化物少量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒子少量含み、ソフト。
- 4 黒褐色土 暗茶褐色ローム粒子少量含む。
- 5 暗褐色土 暗茶褐色ローム粒子多量含む。

SK-131

- 1 褐色土 ローム粒子微量、しまり弱い。
- 2 褐色土 焼土、ロームブロックを含む。
- 3 褐色土 炭土ブロックを多量混在。
- 4 褐色土 砂質が強い。
- 5 褐色土 ローム粒子を含む。

SK-132

- 1 黒褐色土 炭化物を多量、焼土少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム・焼土粒子少量含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子、炭化物少量含む。
- 4 黒褐色土 炭化物を少量含む。
- 5 暗褐色土 ローム・焼土粒子、粘土少量。
- 6 暗褐色土 ローム粒子少量含み、粘質。
- 7 暗褐色土 ロームブロック多量、粘質。

SK-133

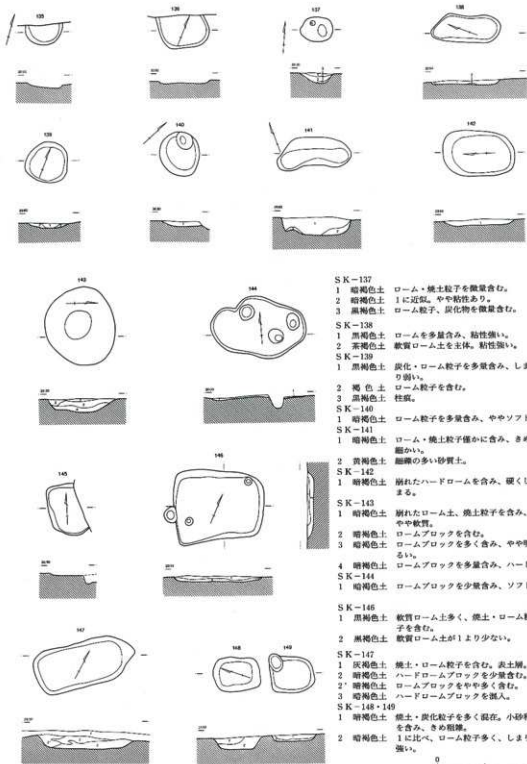
- 1 黒褐色土 ソフト。
- 2 暗褐色土 ローム粒子多量。
- 3 暗褐色土 ローム粒子多量、ハード。
- 4 暗褐色土 ローム粒子少量、しまり強い。
- 5 暗褐色土 ローム粒子少量、粘質。

SK-134

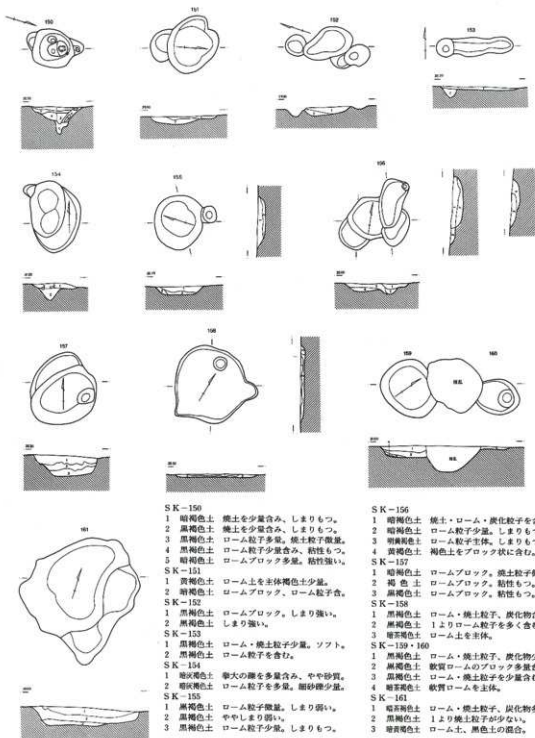
- 1 褐色土 ローム粒子少量、粘性もつ。
- 2 褐色土 ローム粒子含み、しまり強い。

0 2m

第216図 第2区土壌(1)



第217図 第2区土壌(2)



S K-150

- 1 暗褐色土 焼土を少量含み、しまりもつ。
- 2 黒褐色土 焼土を少量含み、しまりもつ。
- 3 黒褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子微量。
- 4 黒褐色土 ローム粒子少量含み、粘性もつ。
- 5 暗褐色土 ロームブロック多量、粘性強い。

S K-151

- 1 黄褐色土 ローム土を主体褐色土少量。
- 2 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子含む。

S K-152

- 1 黒褐色土 ロームブロック、しまり強い、しまり強い。
- 2 黒褐色土 しまり強い。

S K-153

- 1 黒褐色土 ローム・焼土粒子少量、ソフト。
- 2 黒褐色土 ローム粒子を含む。

S K-154

- 1 暗褐色土 拳大の礫を多量含み、やや砂質。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を多量、細砂粒少量。

S K-155

- 1 黒褐色土 ローム粒子微量、しまり弱い。
- 2 黒褐色土 ややしまり弱い。
- 3 黒褐色土 ローム粒子少量、しまりもつ。

S K-156

- 1 暗褐色土 焼土・ローム・炭化粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量、しまりもつ。
- 3 暗褐色土 ローム粒子主体、しまりもつ。
- 4 黄褐色土 褐色土をブロック状に含む。

S K-157

- 1 暗褐色土 ロームブロック、焼土粒子微量。
- 2 褐色土 ロームブロック、粘性もつ。
- 3 暗褐色土 ロームブロック、粘性もつ。

S K-158

- 1 黒褐色土 ローム・焼土粒子、炭化物含む。
- 2 褐色土 軟質ロームのブロック多量含む。
- 3 暗褐色土 ローム土を主体。

S K-159・160

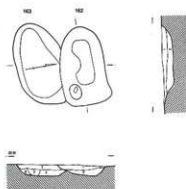
- 1 黒褐色土 ローム・焼土粒子、炭化物少量。
- 2 暗褐色土 軟質ロームのブロック多量含む。
- 3 暗褐色土 ローム・焼土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土 軟質ロームを主体。

S K-161

- 1 暗褐色土 ローム・焼土粒子、炭化物多量。
- 2 黒褐色土 1より焼土粒子が少ない。
- 3 暗褐色土 ローム土、黒色土の混合。

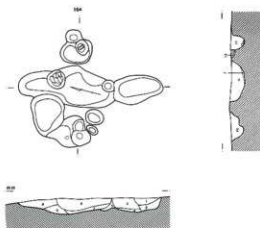
0 2m

第218図 第2区土壌(3)



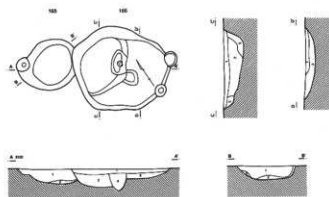
SK-162

- 1 暗褐色土 きめ粗く、しまり悪い。
- 2 黒色土 ローム粒子との混食土。(人為的埋土)



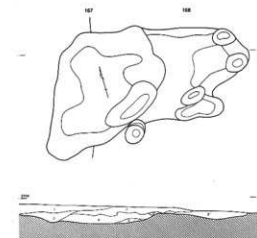
SK-163

- 1 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土 ローム土を主体。暗褐色土ブロックを少量混入。



SK-164

- 1 黒褐色土 炭化・ローム粒子を含む。しまりやや弱い。
- 2 黒褐色土 1に比べ、きめやや細かい。
- 3 暗褐色土 焼土・炭化粒子を含む。しまりやや強い。
- 4 暗褐色土 3に比べ、ローム粒子を含む。
- 5 黄褐色土 ローム土を主体。
- 6 暗褐色土 焼土・炭化粒子を含む。ローム粒子、ブロックを混在。きめ粗い。
- 7 褐色土 6に比べ、ローム粒子が多い。
- 8 褐色土 焼土・炭化粒子を混在。
- 9 褐色土 8に比べ、やや暗く、しまりもつ。
- 10 暗褐色土 3に近似。しまりもつ。
- 11 暗褐色土 砂・ローム・炭化粒子を含み、きめ粗雑。
- 12 褐色土 ローム粒子を混在。しまりややもつ。
- 13 黄褐色土 ローム土を主体。



SK-165

- 1 暗褐色土 焼土・炭化粒子を多く含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 ローム土を主体。若干の焼土粒子を含む。

SK-166

- 1 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(径1cm)を含み、炭化粒子、小砂利を混在。
- 2 暗褐色土 焼土・炭化粒子を1より細かく混在。ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土 2に比べ、やや明るい。
- 4 黒褐色土 焼土・炭化粒子を含み、しまりやや弱い。
- 5 黒褐色土 きめやや細かく、焼土・炭化粒子を含む。

SK-167・168

- 1 灰茶褐色土 ローム・炭化・焼土粒子を含む。が硬、雑、中世陶器を多く含む。
- 2 灰茶褐色土 ローム粒子含む。硬質でブロック状をなす。伊豆、雑、中世陶器を含む。
- 3 灰茶褐色土 焼土粒子、ハードロームを含む。
- 3' 灰茶褐色土 ハードロームをやや多く含む。
- 4 灰茶褐色土 ハードローム主体。茶褐色土を少量含む。
- 5 灰茶褐色土 砂質ローム土を主体。

0 2m

第219図 第2区土壌(4)

第19表 第2区土填一覽表

(单位 cm)

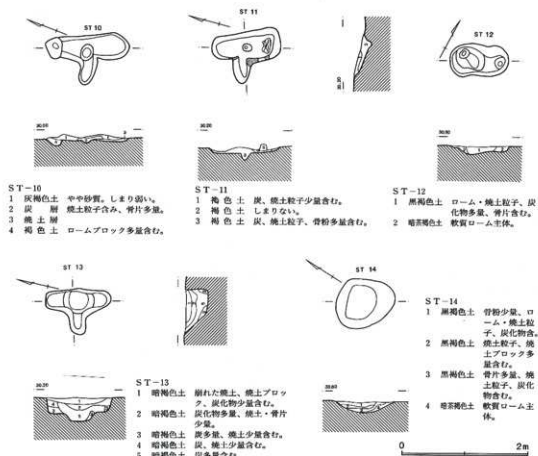
新 番 号	旧 番 号	位 置	形 態	長軸	短軸	深さ	主軸方向	時 期
SK-85	SK-112	N-10	(長方形)	303	(143)	20	N-84'-E	中世
86		O-11	不整形	88	82	16	N-19'-W	中世
87		O-11	不整形	180	120	28	N-18'-W	中世
88		O-11	不整形	82	85	17	N-3'-W	中世
89	202	O-11	不整形	332	220	36	N-44'-E	中世
90	203	O-10, 11	不整形	325	218	66		中世
91	204	O-11	不整形	250	146	47		中世
92	205	O-11	不整形	258	238	16	N-42'-E	中世
93	206	O-11	不整形	238	68	28		中世
94	210	N, O-12	不整形	234	170	4	N-32'-E	中世
95	209	N-11	楕円形	205	173	26	N-83'-W	中世
96	207	O-11	不整形	296	166	43	N-65'-W	中世
97	211	N-11	円形	118	104	19	N-58'-E	中世
98	212	N-11	楕円形	118	48	16	N-60'-E	中世
99	208	O-11	長方形	156	56	24	N-41'-W	中世
100		N-11	長方形	241	178	21	N-43'-E	中世
101	120	Q-12	楕円形	130	46	22	N-70'-E	中世
102	121	Q-12	楕円形	216	150	22	N-47'-E	中世
103	123	P-12	不整形	238	186	7	N-65'-E	中世
104	124	P-12	長方形	162	76	14	N-63'-W	中世
105	119	P-11, 12	不整形	360	302	18	N-60'-E	中世
106	125	P-12	不整形	310	138	22	N-80'-E	中世
107	148	P-12	不整形	152	74	13	N-75'-E	中世
108	122	P-12	長方形	138	62	28	N-75'-E	中世
109	145	P-12	楕円形	106	40	2	N-19'-W	中世
110	146	P-12	円形	90	72	12		中世
111	130	P-12	楕円形	98	90	3	N-52'-E	中世
112	133	P-12	楕円形	104	72	4	N-15'-W	中世
113	131	P-12	不整形	284	118	17		中世
114	132	P-12	不整形	238	126	12	N-64'-E	中世
115	134	P-12	円形	122	114	4	N-27'-W	中世
116	135	P-12	楕円形	100	70	4	N-9'-W	中世
117	152	O-10	正方形	286	246	24	N-63'-E	中世
118	153	O-11	正方形	217	213	28	N-73'-E	中世
119	90	P-10	楕円形	90	58	9	N-17'-W	中世
120	138	P-11	不整形	88	62	16	N-34'-W	
121	95	P-10	長方形	94	48	8	N-50'-W	中世
122	150	P, Q-11, 12	楕円形	88	76	22	N-34'-W	
123	142	P-11	長方形	104	48	7	N-50'-E	
124	214	N-12	楕円形	98	62	13	N-82'-E	
125	143	O-12	楕円形	110	34	7	N-5'-W	中世
126	71	S-11	楕円形	100	82	6	N-51'-W	
127	109	O-10	楕円形	100	40	18	N-75'-E	
128	129	P-12	楕円形	98	68	17	N-46'-E	中世
129	137	P-12	楕円形	80	50	14	N-6'-E	
130	92	P-11	不整形	106	66	26	N-49'-W	中世
131	139	P-12	楕円形	126	86	21	N-85'-W	中世

新番号	旧番号	位 置	形 態	長軸	短軸	深さ	主軸方向	時 期
SK-132	SK-115	P-10	不整形	90	70	24		中 世
133	91	P-10	不整形	126	64	8	N-74'-W	古 代
134	126	P-12	楕円形	104	86	21	N-54'-E	中 世
135	72	S-11	(円形)	78	(40)	5	N-70'-E	中 世
136	73	S-11	(正方形)	108	(68)	5	N-72'-E	
137	116	P-10	円形	70	50	19		
138	70	R-11, 12	長方形	(154)	54	4	N-21'-W	中 世
139	136	P-12	円形	96	86	8	N-49'-E	
140	94	O-10	円形	96	86	11	N-87'-E	中 世
141	140	P-12	楕円形	146	58	40	N-71'-W	
142	215	N-12	長方形	150	90	11		
143	98	P-11	円形	164	148	30	N-72'-E	
144	99	P-11	不整形	200	126	3	N-83'-W	中 世
145	74	S-11	(正方形)	112	(68)	4	N-19'-W	
146	83	R-13	長方形	190	144	15	N-70'-E	
147	216	N-12	長方形	216	90	23	N-66'-E	
148	78	S-10	長方形	102	72	27	N-19'-W	
149	79	S-10	正方形	92	76	16	N-20'-W	
150	110	P-11	円形	90	88	57	N-40'-E	
151	127	P-12	不整形	126	104	16	N-72'-W	
152	128	P-12	楕円形	108	58	12	N-35'-W	古 代
153	93	O-10	楕円形	164	38	3	N-85'-E	
154	147	P-11	楕円形	150	102	36	N-13'-W	中 世
155	87	Q-10	円形	114	100	16	N-72'-E	中 世
156	141	Q-12	不整形	186	90	19	N-39'-E	
157	102	Q-11	楕円形	152	136	49	N-12'-E	古 代
158	86	Q-11	正方形	170	162	6	N-61'-E	中 世
159	81	S-10	円形	112	108	24	N-24'-W	中 世
160	82	S-10	楕円形	88	76	10	N-18'-E	中 世
161	69	R-12	不整形	260	236	58	N-19'-W	中 世
162	113	O-10	楕円形	164	76	18		
163	114	O-10	楕円形	180	100	25	N-75'-E	中 世
164	111	Q-12	不整形	306	244	24	N-13'-W	
165	80	S-10	円形	128	102	31		中 世
166	84	S-10	楕円形	206	168	43	N-27'-W	古 代
167	170	O-12	楕円形	326	170	40	N-46'-E	古 代
168	171	O-12	楕円形	258	170	12	N-62'-E	

(7) 火葬墓

本区からは第10～14号の火葬墓を検出した。「T」型3基、楕円形1基、円形1基である。

いずれの火葬墓も、台地縁辺に点在して検出され、重複やまとまりは認められない。また、出土遺物はなく時期は不明であるが、鋳造時期に火葬墓を造ったとは考えられず、掘立柱建物跡や井戸跡の形成された14世紀後半から15世紀にかけて集落内墓として造られたと考えられる。第11号火葬墓は壁が焼土化し、かなりの高温であったことをうかがわせる。



第220図 第2区火葬墓

第20表 第2区火葬墓一覧表

(単位 cm)

新番号	旧番号	位置	形態	長軸	短軸	深さ	主軸方向	時期
ST-10	ST-03	2	N-9, 10	T型	134	78	7	N-25'-W
11	04		P-11	T型	110	80	18	N-13'-W
12	14		S-11	楕円形	94	46	14	N-66'-E
13	13		O-11	T型	106	72	37	N-12'-W
14	15		R-11	円形	94	76	17	N-32'-W

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第146集

金井遺跡B区

住宅・都市整備公団坂戸入西地区土地区画整理事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告

—Ⅰ—

(第1分冊)

平成6年10月20日 印刷

平成6年10月31日 発行

発行 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-01 大里郡大里村大字箕輪字船木884

T E L (0493) 39-3955

印刷

望月印刷株式会社